

歴史・地理

長谷川博隆編

名古屋大学西洋史論集 1

〔目次〕初期ローマの植民市建設／古代イタリアの移牧と牧人／『パッリウムについて』とテルトゥリアヌス／クロータル 2 世の教会支配／カール 2 世の皇帝権／リウドルフィンガーとガンデルスハイム修道院／1715 年マンチェスタ「恐るべき群衆」／砂糖植民地の発展と奴隷制の廃止

〔1985〕978-4-930689-38-2

ヨーロッパ

— 国家・中間権力・民衆 —

〔品切〕A5 判・330 頁・4,500 円

長谷川博隆編

名古屋大学西洋史論集 2

イマギネスとローマ女性／ローマ共和政末期の「街区」／隷属からも一つの従属へ／ザンクト・ガレン修道院／寄宿生たち／ブルジョワ・イデオログ／民衆文化としての初等教育／トマス・ライトと労働貴族／第一次大戦前ドイツのミシンと女性労働／ドイツ帝国政治体制の改革可能性

〔1991〕978-4-8158-0158-8

権力・知・日常

— ヨーロッパ史の現場へ —

A5 判・302 頁・5,000 円

重松伸司編著

現代アジア移民

— その共生原理をもとめて —

「移動を契機とする多律的共同体の形成」という視点から移民問題にアプローチ。地域・民族集団毎の個別分析にとどまらず、アイデンティティ、エスニシティをテーマに、各別研究の比較考察によってアジア移民の同質性・異質性を明らかにする。移民研究の新しい動向を示唆。

〔1986〕978-4-930689-49-X

〔品切〕A5 判・308 頁・2,900 円

飯田汲事著

日本生命財団出版助成図書

天正大地震誌

博搜された史資料から、400 年前東海・近畿・北陸地方を襲って大災害をもたらした天正地震の全容を解明し、地震活動および地震災害を考察した。わが国の地震災害研究史上に貴重な足跡を記し、地震および災害研究家、防災対策に携わる者へ貴重な歴史的教訓を示唆する。

〔1987〕978-4-930689-59-7

〔品切〕A5 判・576 頁・6,500 円

河野健二編

近代革命とアジア

西洋の近代化がアジアに与えたインパクトとそれへのアジア諸民族の対応を、社会変動との関係で明らかにして、単なる歴史の客体にとどまらない生きたアジア像を提起する。フランス革命 200 年記念に先駆けた中部大学主催のシンポジウム「アジアの近代化と社会変動」の報告集。

〔1987〕978-4-930689-68-9

〔品切〕四六判・288 頁・2,500 円

石原 潤著

定期市の研究

— 機能と構造 —

定期市は新旧両大陸の主要農耕文化圏に古くから存在する人類の重要な営みで、従来、経済史、文化人類学、人文地理学等の様々な分野から注目されてきた。本書は、この定期市の分布や発生—発展—衰退のプロセスをフィールドワークを踏まえ、科学的かつ世界的視野で解明する。

〔2022 (1987)〕978-4-8158-1069-6

〔RA 叢書〕A5 判・414 頁・6,500 円

野田宣雄著

教養市民層からナチズムへ

—比較宗教社会史のこころみ—

A5判・460頁・5,500円

近代ドイツとイギリスの宗教文化の比較というグローバルな視角から、ナチズム現象が、ながらく教養市民層の文化的優位の陰にとり残されたプロテスタント大衆の擬似宗教的政治運動であることを解明。我国戦後歴史学が捉え得なかったナチズム現象の本質に斬新な視角から迫る。

〔1988〕978-4-930689-95-5

L. クレツェンバッハー著 河野眞訳

民衆バロックと郷土

—南東アルプス文化史紀行—

A5判・390頁・3,800円

図像や象徴記号、歌謡や行事など近世的信仰習俗の形成・伝播のつば、南東アルプス地方の民衆文化に刻印されたバロック的遺産を掘り起しそのヨーロッパ文化史における系譜を流麗な文章で辿る。文化史・郷土史研究を主流とするオーストリア民俗学グラーツ学派の代表的著作である。

〔1988〕978-4-930689-96-2

村上信一郎著

権威と服従

—カトリック政党とファシズム—

A5判・330頁・4,300円

第一次世界大戦の危機のさなかに誕生しムッソリーニ・ファシズム体制の成立とともに消滅したイタリア史上最初のカトリック政党であるイタリア人民党の歴史社会的分析を通じて、近代の政治的危機における政治と宗教のダイナミックな関係を考察する。

〔1989〕978-4-8158-0106-9

林 董一著

尾張藩漫筆

〔品切〕四六判・412頁・2,500円

尾張藩のおこりとその殿さま、独立をめざして涙ぐましい運動を展開する犬山・成瀬家、町人や武士のくらし、名古屋商人成立事情、木曾の山林犯罪や尾張藩の盗賊処罰法など、江戸から明治にかけての尾張・名古屋の生態を、尾張藩の生字引と言われる著者がいきいきと再現する。

〔1989〕978-4-8158-0117-5

中村幹雄著

ナチ党の思想と運動

A5判・376頁・5,500円

本書は、ナチ党を無原則な機会主義に基づく旧中間政党とみなす支配的学説を却け、ナチ党の成立から政権獲得までのナチ・イデオロギーの本質と広汎な支持基盤を未公刊・公刊史料を駆使して明らかにする。運動体としてのナチ党そのものの実体に迫りナチ研究に新生面を拓く力作。

〔1990〕978-4-8158-0129-8

望田幸男編

国際比較・近代中等教育の構造と機能

〔品切〕A5判・376頁・4,000円

従来の単なる理念史や制度史の枠をこえて、近年注目されつつある19世紀末から20世紀初頭にかけての中等教育の構造と機能を、英独仏米露とともに日本の場合についても検討し、比較史的観点から各国の中等教育が果たした社会的役割を明らかにする。教育史を歴史学に組みこむ試み。

〔1990〕978-4-8158-0130-4

トムスン/デイヴィス/ギンズブルグ他 近藤和彦/野村達朗編訳

歴史家たち

—Visions of History—

〔品切〕A5判・384頁・3,000円

労働民衆史、大衆文化、図像論、少数民族、女性史等社会史の新しい展望を開拓してきた14人のラディカル・ヒストリアンが、現代史のただなかに生きる歴史家として、生い立ちや歴史学との出会い、体験や著作等を率直に語る知的刺激に満ちたインタビュー集成。

〔1990〕978-4-8158-0137-3

畑中幸子／原山煌編

東北アジアの歴史と社会

〔品切〕A5判・340頁・5,000円

本書は、近年の中国の開放政策によって可能となった現地調査を踏まえて、言語学、東洋史学、文化地理学、民族学の一線研究者が、満洲族と中国東北部の相互影響のメカニズムを言語・慣習・信仰の各側面について実証的に究明した戦後初のツングース・モンゴル研究。

〔1991〕978-4-8158-0152-6

A. J. P. テイラー著 井口省吾訳

近代ドイツの辿った道

—ルターからヒトラーまで—

〔品切〕A5判・290頁・3,500円

「ドイツ人の歴史は極端の歴史である。中庸以外の全てがある」という痛烈な書き出しで始まる本書は、わが国でも著名な現代英国の歴史家が、ドイツの齎した悲劇の原因を尋ねて、ルターからヒトラーにいたるドイツ近代史の軌道を告発し、ドイツ統一が孕む問題性を鋭く予見した歴史の傑作。

〔1992〕978-4-8158-0180-9

ジャック・ルゴフ著 池上俊一訳

中世の夢

四六判・296頁・2,800円

夢、「フィクション・サイエンス」、森、荒野、野人、そしてインド洋——ヨーロッパ中世において、人間社会の現実と不可分な関係の中で成立した、これら夢や幻想の世界を、文学・人類学との出会いのもと、アナル学派の巨匠が雄大なスケールで論じ、歴史に失われた半身を回復する。

〔1992〕978-4-8158-0181-6

森 正夫編

江南デルタ市鎮研究

—歴史学と地理学からの接近—

〔品切〕A5判・290頁・5,800円

本書は、中国現代化の先進地帯である江南デルタの市鎮に焦点を当て、立地条件、歴史的基盤、社会統合の特質、集落システムの形態、商品市場の存在形態等を、実地調査を踏まえて、多角的学際的に究明し、もってそのエネルギーの根源を明らかにする。

〔1992〕978-4-8158-0183-0

ユルゲン・コッカ著 加来祥男編訳

工業化・組織化・官僚制

—近代ドイツの企業と社会—

〔品切〕A5判・242頁・4,000円

本書は、19世紀後半以降の社会経済の組織化の問題、巨大企業組織の変化と専門経営者の出現、企業家・経営者の正統性問題、教育と階層間の流動性、工業化に果たした家族や官僚制の役割等、ドイツ近現代史の重要問題を国際比較を交えて広い視野から明晰に考察する。

〔1992〕978-4-8158-0189-2

長谷川博隆編

古典古代とパトロネジ

〔品切〕A5判・320頁・5,500円

近年、社会学や人類学との交流によって、新たにパトロネジが注目を集めている。本書は、人間社会に普遍的に観察されるこのパトロネジの、ギリシア・ローマにおける位置と機能を問うとともに、社会学的モデルとの対質を通じて、古代世界の社会システム・イデオロギーの総体をも逆照射する。

〔1992〕978-4-8158-0190-8

D. ポイカート著 小野清美／田村栄子／原田一美訳

ワイマル共和国

—古典的近代の危機—

〔品切〕A5判・298頁・3,500円

世代論、人口動態論、ミリュエ論、女性史、余暇行動の分析、相対的安定期の重視など、数々の斬新な枠組みと論点を導入し、ワイマル共和国を独自の時代としてトータルに把握——近代の両義的過程を見据えた冷静で現実主義的な解釈は、本書をしてこの時期の最良の通史としている。

〔1993〕978-4-8158-0201-1

M. ミツテラウアー／R. ジーダー著 若尾祐司／若尾典子訳

ヨーロッパ家族社会史

— 一家父長制からパートナー関係へ —

A5判・260頁・2,400円

家父長制からパートナー関係へというヨーロッパの家族発展の基本線を、家族が本来担っていた諸機能の削減・解除という側面から巨視的に捉えるとともに、家族サイクル論の視点から、歴史のなかの「若者」や「老人」の問題にメスをいれた、ドイツ語圏の家族史研究を代表する著作。

〔1993〕978-4-8158-0209-7

近藤孝弘著

ドイツ現代史と国際教科書改善

— ポスト国民国家の歴史意識 —

A5判・460頁・8,000円

第一次大戦以降とわりわけ第二次大戦以降本格化する、欧州における歴史教科書改訂作業の丹念な検証を通じて、ドイツが如何にして自国中心的歴史観を克服してきたかを明らかにする。わが国のアジア近隣諸国との教科書改訂問題にも示唆するところ大な労作。日本比較教育学会平塚賞受賞

〔1993〕978-4-8158-0213-4

神野清一著

日本古代奴婢の研究

〔品切〕A5判・404頁・7,000円

本書は、中国から律令とともに良賤制を導入した日本の古代国家において、賤身分としての奴婢が担った社会的機能・在り方とその階級的側面のもつ経済的意義とを初めて統一的かつ実証的に明らかにした労作であり、日本の古代社会の構造的把握とその性格の解明に資するところ大であろう。

〔1993〕978-4-8158-0215-8

林 董一著

日本生命財団出版助成図書

近世名古屋商人の研究

A5判・578頁・10,000円

名古屋商人とは何か、名古屋商人はいかに形成されてきたのか？ 近江商人、大坂商人、江戸商人等とは異なる独自の世界と歴史を、尾張藩公法史に関して画期的業績をあげた著者が、文書史料の悉皆の博搜と精緻平明な分析により明らかにする近世名古屋商業史研究の決定版。明治村賞受賞

〔1994〕978-4-8158-0221-9

栗原 優著

第二次世界大戦の勃発

— ヒトラーとドイツ帝国主義 —

A5判・702頁・9,000円

本書は、従来別個に追求されてきたヒトラーの戦争目的を中心とする外交史的研究と、ドイツの戦争準備に焦点を合わせた軍事史的・経済史的研究とを、ドイツの諸文書館の根本資料を博搜することによって総合し、第二次大戦の原因解明に新たな光を当てる、我が国初の本格的な研究である。

〔1994〕978-4-8158-0226-4

山田 賢著

移住民の秩序

— 清代四川地域社会史研究 —

A5判・320頁・6,000円

漢民族の歴史は、一面では開発と移住の歴史でもあった。本書は、18世紀前後、こうした開発の波に洗われていた前線の一つ、四川省を具体例として取り上げ、人の移動という観点から「地域」の生成と変容を微視的に検討し、かかる「地域」= 基層から伝統中国の秩序に迫った力作である。

〔1995〕978-4-8158-0247-9

望田幸男編

近代ドイツ＝「資格社会」の制度と機能

A5判・340頁・5,500円

近代社会は身分制の否定の上に、職業資格をもって社会の編成を図っており、その意味で「資格社会」だと言える。本書は、近代ドイツをその典型として捉え、専門職研究の最新成果を踏まえて諸種の職業資格の制度と機能を分析、もって新たなドイツ社会像を形象化した共同研究の成果である。

〔1995〕978-4-8158-0249-3

渡辺 誠著

日韓交流の民族考古学

【RA 叢書】B5 判・216 頁・6,700 円

縄文時代のドングリ食・漁業から弥生時代のト骨・鳥形木製品、さらには近世の瓦・木綿にいたるまで、長年にわたる日韓の精力的なフィールドワークをもとに物質資料の比較を通して、日本と朝鮮半島との持続的な交流の実態を解明、以て新たな物質文化史の構築を試みた労作である。

〔2022 (1995)〕978-4-8158-1070-2

東 晋次著

後漢時代の政治と社会

A5 判・368 頁・8,500 円

これまで研究が手薄であった後漢時代史の展開を、「貴戚政治」「士大夫豪族」「察举体制」等の新しい概念を通して考察し、皇帝支配のあり方の変化と郷里社会における豪族の成長とを相関的に把握することによって、中国伝統社会の原型が後漢時代に形成されたことを明らかにする。

〔1995〕978-4-8158-0271-4

若尾祐司著

近代ドイツの結婚と家族

A5 判・438 頁・5,800 円

①市民的結婚の法制化、②結婚行動と家族形成の実態、③女性運動による結婚・家族制度の批判、の三つの視角から、19 世紀ドイツにおける「結婚の社会史」に迫るとともに、「ドイツ特有の道」論との関連を問うことを通じて、「近代」の歴史の構図を鋭く批判する。

〔1996〕978-4-8158-0272-1

田村栄子著

若き教養市民層とナチズム

—ドイツ青年・学生運動の思想の社会史—

A5 判・518 頁・5,800 円

「青年を制するものは世界を制する」——教養と「フォルク」のあり方を真摯に問い、ナチス「革命」の能動的な担い手と化してゆく若き知的エリートとその思想の生成過程を、ヴァンダーフォーゲルからナチス学生にいたるまで、初めて総合的・社会的に解明した労作。

〔1996〕978-4-8158-0278-3

田中恭子著

土地と権力

—中国の農村革命—

A5 判・442 頁・6,000 円

中国共産党の公刊資料には含まれない台湾内務省の所有する秘密資料を駆使して 1945 年～49 年の内戦期中国解放区の土地改革の実態とそれが実際に革命に寄与したのかどうか、そしてこの土地改革のやり方の中こそ、その後の中国共産党政治の原型があることを実証的に明らかにする。

〔1996〕978-4-8158-0280-6

G. フライターク著 井口省吾訳

ドイツ社会文化史

A5 判・402 頁・5,000 円

著者は 19 世紀ドイツの著名な作家兼ジャーナリスト。「ドイツ人は何者であり、どんな民族か？」をモチーフに、民族移動期以後のドイツ民族の歴史を王侯貴族から市民・庶民にいたるその心性をも含んで描いたアナール派以前のアナール派的歴史で、今なお最良のドイツ国民史とされる。

〔1996〕978-4-8158-0297-4

佐藤彰一著

修道院と農民

—会計文書から見た中世形成期ロワール地方—

A5 判・784 頁・16,000 円

ヨーロッパ中世世界の成立過程をいかに捉えるか。サン・マルタン修道院会計文書の体系的分析により、この文書がカバーするロワール地方を観察の場とし、史料が語る農村社会の構造と変動の様を介して、古代から中世への移行の様相を初めて具体的に解明した画期的労作。日本学士院賞受賞

〔1997〕978-4-8158-1084-9

S. M. グインター著 和田光弘/山澄亨/久田由佳子/小野沢透訳

星条旗 1777～1924

四六判・334頁・3,600円

多様な民族・階級がせめぎ合う広大な人工国家アメリカのナショナル・アイデンティティはいかにして形成されたのか?—「想像の共同体」の創造に動員され、やがて愛国主義の中樞へと上り詰めてゆく国旗の機能と変遷を、市民宗教の概念を駆使しつつ描き出した星条旗の文化史。

〔1997〕978-4-8158-0325-4

梶川伸一著

飢餓の革命

—ロシア十月革命と農民—

A5判・604頁・12,000円

本書は、ソ連崩壊によって公開されはじめた膨大な資料を踏まえて、十月革命直後の戦時共産主義期におけるボリシェヴィキ権力と農民、都市プロレタリアと農民の矛盾・対抗関係の実態を、革命後全国に波及した飢餓に焦点を合わせて民衆のレベルから実証した労作。

〔1997〕978-4-8158-0333-9

羽賀祥二著

史蹟論

—19世紀日本の地域社会と歴史意識—

A5判・434頁・5,800円

私たちの歴史意識はどのように形成されてきたのか。——本書は、19世紀日本の各地で澎湃として起こった歴史的遺跡の発掘や考証、記念碑建立の活発な動きをつぶさに検討することによって、近代の史蹟空間を作り上げた歴史的想像力と文化構造の特質を明らかにした労作である。

〔1998〕978-4-8158-0347-6

岡本隆司著

近代中国と海関

A5判・700頁・9,500円

中国と西洋の交渉の場であったばかりでなく、西洋人が管理運営にも携わった海関制度を軸として、16世紀末から20世紀初にわたる中国の国家構造とその変遷を解明した力作。西洋近代モデルへの批判を実証的に展開した本書は、アジア研究の活性化を促すであろう。大平正芳記念賞受賞

〔1999〕978-4-8158-0357-5

高橋 章著

アメリカ帝国主義成立史の研究

A5判・382頁・5,800円

建国以来のアメリカ膨張主義の伝統をふまえて「大陸帝国」から「海洋帝国」への転換を跡づけ、1898年の「米西戦争」における帝国主義世界体制の成立とその一環としてのアメリカ帝国主義の出現を考察。当時の思想家による帝国論や巨大企業支配・革新主義政治との関連をも照射する。

〔1999〕978-4-8158-0360-5

池上俊一著

ロマネスク世界論

A5判・586頁・6,500円

魂と肉体、個人と共同体、声と文字、自然と超自然が、イメージの深い象徴＝認識作用によって結びつけられ、ヨーロッパの本質を形成した時代。その心的世界の全体構造を、現実社会とのダイナミックな連関の下、思考・感覚・感情・霊性・想像の五つの局面とその相互作用から解明した大作。

〔1999〕978-4-8158-0362-9

オットー・ダン著 末川清/姫岡とし子/高橋秀寿訳

ドイツ国民とナショナリズム

—1770～1990—

〔品切〕A5判・328頁・3,800円

ネイションに関わる用語の大胆な定義づけによって、本書は民族至上主義的ナショナリズムの批判と国民運動の再評価を歴史的に展開した。帝国と領邦、民族・エスニシティ、階級などが幾重にも錯綜した「ドイツ国民」の形成をめぐる葛藤の歴史を、ヨーロッパ全体を視野に入れつつ描き出す。

〔1999〕978-4-8158-0373-5

高橋友子著

捨児たちのルネッサンス

—15世紀イタリアの捨児養育院と都市・農村—

【RA叢書】A5判・338頁・5,400円

15世紀フィレンツェに創設された、インノチェンティ捨児養育院の例外的に豊かな史料をもとに、捨児たちの運命から家族や乳母の姿、転換期における都市社会と慈善、農村に支えられた里子システムまでを、数量分析と記述史料の丹念な分析により解明する。**マルコ・ポーロ賞受賞**

〔2022 (2000)〕978-4-8158-1071-9

和田光弘著

紫煙と帝国

—アメリカ南部タバコ植民地の社会と経済—

A5判・446頁・5,800円

砂糖と並ぶ近世の主要な国際商品たるタバコ。北米大陸南部においてその生産を担った「タバコ植民地」の変容を多角的に分析し、イギリス第一帝国という巨大なシステムに組み込まれた北米南部植民地の歴史的構造を浮き彫りにする。**アメリカ学会清水博賞受賞**

〔2000〕978-4-8158-0383-4

松本俊郎著

「満洲国」から新中国へ

—鞍山鉄鋼業からみた中国東北の再編過程 1940～1954—

A5判・380頁・5,800円

日本の敗戦、「満洲国」の倒壊、ソ連軍の進駐、国共内戦の混乱の後、その当初の開発意図を越えて、新中国の経済建設に組み込まれた満洲鉄鋼業の物的・人的資源の連続と断絶の諸相を、多様な史料と聞き取りによって実証的に解明、研究上の空隙を埋める労作。**日経・経済図書文化賞受賞**

〔2000〕978-4-8158-0384-1

リンダ・コリー著 川北稔監訳

イギリス国民の誕生

〔品切〕A5判・462頁・5,800円

広範なプロテスタント文化、長期に及ぶ対仏抗争、海外帝国の膨大な利益が「イギリス国民」の創生にもたらした意味を多彩な文書・画像史料から解明、国王、支配階層、諸民族、男性・女性が「イギリス人」へと参画し多層的に再構成されていくあり方を、ニュアンスに富む歴史記述により描出。

〔2000〕978-4-8158-0387-2

E. L. ジョーンズ著 安元稔／脇村孝平訳

ヨーロッパの奇跡

—環境・経済・地政の比較史—

A5判・290頁・3,800円

持続的経済成長はなぜヨーロッパで始まったのか？ アジアとの対比による比較史的方法と超長期的視野による分析を導入し、地理、気候、災害等の環境要因と、帝国、諸国家併存体制等の固有の政治システムの規定的役割を解明、経済史の中心的議論に強いインパクトを与えた名著の翻訳。

〔2000〕978-4-8158-0389-6

エリック・リーヴァー著 望田幸男監訳 田野大輔／中岡俊介訳

第三帝国の音楽

A5判・342頁・3,800円

20世紀文化史上の暗黒時代における音楽と政治の曖昧な関係を、同時代の諸資料や新聞・雑誌等を博捜することによって明らかにした労作。現代にいたるまでのドイツ音楽の連続性を念頭におきつつも、従来の伝記的叙述から踏み出し、ナチ時代における音楽のあり方をトータルに把握する。

〔2000〕978-4-8158-0397-1

近藤孝弘著

自国史の行方

—オーストリアの歴史政策—

四六判・262頁・3,200円

ハイダー現象をもたらし歴史認識の深刻な歪みを、ナチズムへの加担をめぐる自己理解の問題として、「犠牲者神話」の闇に取り組む歴史教育の葛藤に満ちた現場から浮き彫りにするとともに、歴史意識と国家像、ネーションと極右主義の清算されざる関係を鋭く問い直す。

〔2001〕978-4-8158-0398-8

P. シェットラー編 木谷勤／小野清美／芝健介訳

ナチズムと歴史家たち

A5判・300頁・4,200円

アカデミックな歴史学によるナチ支配への協力の実態をはじめ描き出すとともに、戦後一大潮流をなした社会史の起源に大きな疑問符をなげかける。一握りのナチ・イデオログに偏りがちだった研究状況を乗り越え、歴史記述自体の政治性を問題化して、強いインパクトを与えた注目の研究。
〔2001〕978-4-8158-0408-4

長谷川博隆著

古代ローマの政治と社会

A5判・708頁・15,000円

世界帝国ローマの形成——その支配領域の拡大と市民団の変質は法・制度の問題としてどのように克服されていくのか、いったいそれは国家ローマそしてローマ人にとって何を意味するのか？共和政期ローマの政治・社会を動かすものを、理念と現実の葛藤の中から捉えた碩学の論集。
〔2001〕978-4-8158-0410-7

長谷川博隆著

古代ローマの自由と隷属

A5判・686頁・15,000円

ローマ人とはいかなる人々か？農業や牧畜など「なりわい」に基づく人間関係を、家・社会・国家という三層の連関の中で捉え、ローマ人における自由と隷属、支配と結合のありようを照射。制度史と社会史を統合する中から、ローマ的なものの特殊性と普遍性を探った碩学の論集。
〔2001〕978-4-8158-0411-4

井上 進著

中国出版文化史

—書物世界と知の風景—

A5判・398頁・4,800円

春秋時代の書籍成立から印刷本の誕生をへて明末の書物普及までの、二千年にわたる書物の文化史。書物を作る・売る・読む・蔵する等、さまざまな相に光をあてるとともに、知のあり方はもちろん、帝国の政策やイデオロギーとの関係など、政治・社会との相互作用に注目し、全体像を描き出す。
〔2002〕978-4-8158-0420-6

マルク・ラエフ著 石井規衛訳

ロシア史を読む

A5判・268頁・4,200円

ソ連の崩壊によるロシア史への新たな関心の高まりのなかで、ロシアを含め各国でもっとも支持された名著。該博な知識にもとづく的確な問題把握とトータルな叙述によりロシア史の理解を一新、汎ヨーロッパ的視点に立ち、紀律国家の展開による近代化の姿を輪郭あざやかに描き出す。
〔2001〕978-4-8158-0422-0

吉澤誠一郎著

天津の近代

—清末都市における政治文化と社会統合—

A5判・440頁・6,500円

中国史というナショナルな枠組みで考えられてきた歴史を、天津という一都市の視点から捉え直した力作。地域防衛の実践から行政機構の革新、愛国主義の発揚まで、政治文化と社会統合のあり方に注目し、地域的要因と国際的契機が織りなす「近代」の実像を描き出す。山口一郎記念賞受賞
〔2002〕978-4-8158-0423-7

脇村孝平著

飢饉・疫病・植民地統治

—開発の中の英領インド—

【RA叢書】A5判・270頁・5,400円

英領期における飢饉と疫病被害の深刻な様相は、なにゆえに生じたのか？灌漑用水路や鉄道の発達、都市化などの開発がもたらした疾病環境の悪化を、社会経済的変動に即して描出しつつ、植民地政府の対応をも詳細に叙述、英領期インド社会への新たな視野を開く。国際開発研究大来賞受賞
〔2026(2002)〕978-4-8158-1230-0

ケネス・E. フット著 和田光弘／森脇由美子／久田由佳子／小澤卓也／内田綾子／森丈夫訳

記念碑の語るアメリカ

—暴力と追悼の風景—

A5判・354頁・4,800円

癒しがたい悲劇と暴力はいかにしてアメリカの風景に刻み込まれ、国民の記憶を創り上げてきたのか——さまざまな悲劇の場所が語る物語を、鮮烈な写真とともに描き出し、アメリカ社会の深層によこたわる暴力と景観、記憶と忘却のメカニズムを明らかにする。J. B. ジャクソン賞受賞。

[2002] 978-4-8158-0440-4

山本 進著

清代の市場構造と経済政策

A5判・368頁・6,800円

経済発展が地域経済圏の自立化へと帰結したのはなぜか？ 地方誌に残された記述をもとに、米穀・棉布をはじめ、各地で発生した地域産品の盛衰と地域間分業の展開過程を詳細に分析、政府の市場政策への新たな視角の提起により、清代市場の構造的特質を浮き彫りにした労作。

[2002] 978-4-8158-0438-1

溝口常俊著

日本近世・近代の畑作地域史研究

A5判・452頁・6,500円

水田中心史観のもとで看過されてきた畑作生業の実態を初めて解明、歴史的・空間的把握と、宗門改帳、日記、地誌などの分析により、畑作村民の経済的・社会的日常生活を復元するとともに、生業の複合的広がりや高い人口支持力を実証し、地域史研究に再考を迫る。人文地理学会賞受賞

[2002] 978-4-8158-0451-0

秋田 茂著

イギリス帝国とアジア国際秩序

—ヘゲモニー国家から帝國的な構造的権力へ—

A5判・366頁・5,500円

19世紀末から1930年代までの英帝国史を、ヘゲモニー国家から「帝國的な構造的権力」への変容として捉え、インド軍の海外派兵問題と、東アジアの工業化に対する英国の認識に着目し、安全保障構造から経済構造にわたる新たな国際関係史の構築を試みる。大平正芳記念賞受賞

[2003] 978-4-8158-0456-5

望田幸男編

近代ドイツ = 資格社会の展開

A5判・370頁・5,800円

エリートの専門職業に比して解明が遅れていた非エリート層の職業に焦点をあて、職業資格にもとづいて展開した近代的な社会編成の構造と、そこに見られた人々の葛藤を照射、見落とされてきた近代ドイツ社会の「影」の部分をも描き出し、資格社会の新たな全体像を示す。

[2003] 978-4-8158-0457-2

安藤隆穂編

フランス革命と公共性

A5判・368頁・5,000円

革命を規定した公共性の転換の諸相を、公論と公共精神をめぐる対立と相克の過程を軸に描き出す。思想・経済・教育・宗教・法・政治の問題領域からの多様な分析により、自由をめぐる公共圏創出のダイナミズムを捉え、公共性論・フランス革命史に新たな領域を拓いた画期的成果。

[2003] 978-4-8158-0458-9

ジョン・ブリュア著 大久保桂子訳

財政 = 軍事国家の衝撃

—戦争・カネ・イギリス国家 1688-1783—

A5判・326頁・4,800円

強力な戦争遂行国家はいかにして生まれたのか？ 巨大な陸海軍、勤勉な行政官、重税と莫大な債務を特徴とする新たな国家、「財政 = 軍事国家」の成立とその政治的・社会的インパクトを明快に描き出し、従来のイギリス史像に根本的な書き換えを迫った話題作。待望の邦訳。

[2003] 978-4-8158-0465-7

山本有造編

帝国の研究

—原理・類型・関係—

A5判・406頁・5,500円

帝国の多様な歴史を貫く原理とは何か？ 史上にあらわれた諸帝国の存立構造とその核心を、グローバルヒストリー研究の潮流や国民国家形成との関連を踏まえて掘み出す。帝国の肖像を、経済・思想・政治・文化の面からトータルに浮かび上がらせた、第一線の論者による画期的帝国論。

〔2003〕978-4-8158-0473-2

川島 真著

中国近代外交の形成

A5判・706頁・7,000円

中国にとって近代外交とは何であり、それはいかにして形づくられたのか。国際社会における「文明国」の地位をめざし外交官僚らが紡ぎだした制度や政策を、当時の外交檔案の博覧により同時代的文脈の中で明らかにし、「中国」が表出されていくさまを捉える。サントリー学芸賞受賞

〔2004〕978-4-8158-0476-3

小野清美著

保守革命とナチズム

—E. J. ユングの思想とワイマル末期の政治—

A5判・436頁・5,800円

大衆民主主義との対峙、ヨーロッパ統合構想、近代文明批判。青年保守派の代表的論客の思想と行動を通して、今日なおアクチュアルな意味をもつ保守革命の政治思想を描きだすとともに、ナチズムとの本質的差異を明らかにし、ワイマルの悲劇をもたらした政治過程に新たに切り込んだ力作。

〔2004〕978-4-8158-0484-8

本野英一著

伝統中国商業秩序の崩壊

—不平等条約体制と「英語を話す中国人」—

A5判・428頁・6,000円

アロー戦争後、近代西洋の経済秩序原理が中国のそれとぶつかり、軋轢の中から伝統的商業秩序が崩壊していく過程を、「不平等条約」特権を利用する中国人の役割に注目しつつ、中英経済紛争を分析することで実証的に解明、中国社会の歴史的性格を浮き彫りにした画期的労作。

〔2004〕978-4-8158-0486-2

平野 聡著

清帝国とチベット問題

—多民族統合の成立と瓦解—

A5判・346頁・6,000円

「中華」的価値とは一線を画す内陸アジアから、東アジアにまたがる多民族統合を実現した清帝国の論理、諸政策と統治構造を、チベット仏教文化と儒教文化の緊張関係を軸に捉え、西欧近代的価値の流入やナショナリズムの勃興とともに内部崩壊していく過程を描く。サントリー学芸賞受賞

〔2004〕978-4-8158-0487-9

ピーター・パーク著 石井三記訳

ルイ 14 世

—作られる太陽王—

A5判・346頁・4,200円

偉大なる王の公的イメージはいかにして形成され、王権のあり方とどのように関わっているのか。王権の表象戦略と集合的なイメージ創出のダイナミズムを、当時の絵画や版画、メダルや彫刻、演劇、バレエ、オペラ等に探り、権力と表象やメディアの関係を明らかにした卓抜な著作。図版多数。

〔2004〕978-4-8158-0490-9

ピーター・クラーク著 西沢保／市橋秀夫／椿建也／長谷川淳一他訳

イギリス現代史 1900-2000

A5判・496頁・4,800円

政治・経済から社会・文化にいたるまで、大きな流れと細部の展開を巧みに組み合わせ、「栄光の時をもち、希望を育んできた」イギリスの人々の幅広い経験を見事に描き出した最良の通史。衰退の歴史としてのみ語られがちであった20世紀イギリスの新たな全体像が鮮やかに浮かび上がる。

〔2004〕978-4-8158-0491-6

岡本隆司著

属国と自主のあいだ

—近代清韓関係と東アジアの命運—

A5判・522頁・7,500円

せめぎあう東西の世界秩序の中から焦点として浮かび上がった朝鮮の「属国自主」——従来注目されることの少なかった清韓関係を日米英露との交渉の中で捉え、19世紀半ばから日清戦争にいたる東アジアの構造変動を、徹底的な史料分析によって描き出した労作。**サントリー学芸賞受賞**
[2004] 978-4-8158-0494-7

若尾祐司／羽賀祥二編

記録と記憶の比較文化史

—史誌・記念碑・郷土—

〔品切〕A5判・408頁・5,700円

「歴史」の場はいかにして形成され、社会に何をもたらしたのか。地域社会の歴史と民俗を記録した郷土誌と、歴史的記憶のシンボルである記念碑の分析を中心に、近代における歴史文化の形成と、ナショナリズムにつながる歴史意識の具体的な様相を、比較史的に明らかにした共同論集。
[2005] 978-4-8158-0501-2

テオドール・モムゼン著 長谷川博隆訳

モムゼン ローマの歴史Ⅰ

—ローマの成立—

A5判・490頁・6,000円

現代のローマ史研究の基礎を築いた碩学が若き才能を注ぎ込んだ歴史の一大傑作にして、ノーベル文学賞を受賞した情熱の書。政治・経済から宗教・芸術まで人間の営みの全体を描きだす。本巻ではイタリアの統一までを叙述（全4巻）。**日本翻訳文化賞、ドイツ連邦共和国レッシング翻訳賞受賞**
[2005] 978-4-8158-0505-0

テオドール・モムゼン著 長谷川博隆訳

モムゼン ローマの歴史Ⅱ

—地中海世界の覇者へ—

A5判・438頁・6,000円

稀代の碩学が若き才能を注ぎ込んだ歴史の一大傑作。本巻では、カルタゴの名将ハンニバルとの壮絶な戦いや東方での戦争をへてローマが地中海世界の覇権を握る一方、来るべき革命への予兆がきざす。**日本翻訳文化賞、ドイツ連邦共和国レッシング翻訳賞受賞**
[2005] 978-4-8158-0506-7

テオドール・モムゼン著 長谷川博隆訳

モムゼン ローマの歴史Ⅲ

—革新と復古—

A5判・454頁・6,000円

稀代の碩学が若き才能を注ぎ込んだ歴史の一大傑作。本巻では、地中海世界の覇権を握るにいたったローマが、元老院による統治体制の機能不全から革新と復古のあいだを揺れ動く混迷の時代を描く。**日本翻訳文化賞、ドイツ連邦共和国レッシング翻訳賞受賞**
[2006] 978-4-8158-0507-4

テオドール・モムゼン著 長谷川博隆訳

モムゼン ローマの歴史Ⅳ

—カエサル時代—

A5判・664頁・7,000円

稀代の碩学が若き才能を注ぎ込んだ歴史の一大傑作。遂に完結。共和政を崩壊に導くとともに、地中海世界からヨーロッパとアジアにわたる新しい世界帝国を基礎づけたカエサルとその時代を描ききった全4巻のクライマックス。**日本翻訳文化賞、ドイツ連邦共和国レッシング翻訳賞受賞**
[2007] 978-4-8158-0508-1

伊藤之雄著

昭和天皇と立憲君主制の崩壊

—陸仁・嘉仁から裕仁へ—

A5判・702頁・9,500円

近年公表・公刊が進んだ一次史料を精読し、イギリスの君主との実態比較も踏まえつつ、明治以来の立憲君主制の展開と昭和天皇・宮中の動向、そして立憲君主制崩壊の政治過程を、当時の法・政治慣行や天皇・皇族の公的イメージにまで立ち入り、あたうかぎり客観的にとらえた渾身の力作。
[2005] 978-4-8158-0514-2

川島正樹編

アメリカニズムと「人種」

A5判・386頁・3,500円

アメリカの「自由と民主主義」はなぜ「人種」問題を解決できないのか。またそれはグローバル化の中でどのような意味を持つのか。——アメリカニズムと「人種」の関係を、植民地時代以来の多元的な歴史と、現代アメリカ社会における困難という二つの軸で捉え、全体像を浮き彫りにする。
〔2005〕978-4-8158-0516-6

佐藤彰一／池上俊一／高山博編

西洋中世史研究入門〔増補改訂版〕

四六判・414頁・3,600円

古代と近現代を一望におさめ、歴史を見通すために好適な観測地点たる中世——本書は、邦語を中心とする基本的文献を紹介しながら、研究を方向づけてきた問題意識の展開の中に位置づけることによって、研究の現在と読者を架橋するベーシックな研究入門である。最新の研究成果を大幅増補。
〔2005〕978-4-8158-0517-3

マリア・ロサ・メノカル著 足立孝訳

寛容の文化

—ムスリム、ユダヤ人、キリスト教徒の中世スペイン—

A5判・336頁・3,800円

「世界の宝飾」と呼ばれた輝ける土地の記憶——。7世紀にわたる三宗教共存の中で形成された寛容の文化を、美しいタペストリーを織り上げるかのごとく再構成し、地中海・ヨーロッパ世界の歴史と文化の新たな相貌を浮かび上がらせる。今日を生きる我々の心をゆさぶらずにはおかない傑作。
〔2005〕978-4-8158-0518-0

宮 紀子著

モンゴル時代の出版文化

A5判・754頁・9,500円

これまで「暗黒時代」とされてきた大元ウルス治下の文化政策と出版活動を、東アジアへの広範な影響も視野にいれ、多領域にわたる一次資料にもとづきながら、書物・言語・挿絵・地図等にそくして再検討、かつてない活況を呈した時代の実像を描きだす。日本学士院学術奨励賞受賞
〔2006〕978-4-8158-0526-5

礪波護／岸本美緒／杉山正明編

中国歴史研究入門

A5判・476頁・3,800円

近年の史料状況の激変ともなう研究の新展開をふまえ、中国の歴史を中国史の枠組みだけでなく広く世界史の中で捉えるために、邦語を中心とする基本文献の紹介を軸に、歴史の意味や史料のあり方から、研究を助ける様々な知識まで、中国史研究のエッセンスを伝えるベーシックな研究入門。
〔2006〕978-4-8158-0527-2

池内 敏著

大君外交と「武威」

—近世日本の国際秩序と朝鮮観—

A5判・468頁・6,800円

日本の近世外交は東アジア世界のなかでどのように成立・変容したのか？ 唯一正式の外交関係を構築した対朝鮮関係を軸に、近世外交と「日本型華夷意識」の諸相を地域・時代・身分差をふまえて精緻化するとともに、近世「竹島一件」を初めて日朝関係の形成過程に実証的に位置づけた労作。
〔2006〕978-4-8158-0531-9

大黒俊二著

嘘と貪欲

—西欧中世の商業・商人観—

A5判・300頁・5,400円

商人・商業への蔑視が肯定へと転換していくトボスの変容を、スコラ学文献・教化史料・商人文書に表れた微利、為替、公正価格論などをめぐる逆説的な展開からたどり、中世経済思想の隠された水脈を捉え直す。微利禁止から近代的銀行の源流・モンテ設立へといたる、壮大な商業の精神史。
〔2006〕978-4-8158-0532-6

家島彦一著

海域から見た歴史

—インド洋と地中海を結ぶ交流史—

A5判・980頁・9,500円

東西にまたがる「大海域世界」論を提唱し、アジア・アフリカ・ヨーロッパの多様な地域が、イスラーム・ネットワークを通して相互に関連する全体史のなかで捉えられることを、船・港市・島や、様々なルート・海上商人の活動などに着目することで、文献と現地調査から実証した未踏の労作。

[2006] 978-4-8158-0534-0

望田幸男／野村達朗／藤本和貴夫／川北稔／若尾祐司／阿河雄二郎編

西洋近現代史研究入門 [第3版]

[品切] 四六判・546頁・3,200円

最新の研究成果を織り込んだ好評の第3版。「周辺」地域を含めた諸国の政治・社会史から家族・女性史、民衆の生活・文化史に至る西洋近現代史研究の基本視角、その主要問題群、代表的文献を案内したベーシックな研究入門。新たな論点や文献を加えた、学生・関連領域研究者必携の一冊。

[2006] 978-4-8158-0542-5

アンドレ・シュミット著 糟谷憲一／並木真人／月脚達彦／林雄介訳

帝国のはざままで

—朝鮮近代とナショナリズム—

A5判・336頁・4,800円

日清戦争から大韓帝国への移行、植民地化へと到る時代の朝鮮ナショナリズムの勃興を、民族主義と植民地主義の交差する地点から捉え、歴史や国境、「文明化」などをめぐる激しい葛藤を浮かび上がらせる。ナショナル・アイデンティティの形成とその今日に及ぶ影響を捉えた画期的研究。

[2007] 978-4-8158-0549-4

池上俊一著

ヨーロッパ中世の宗教運動

A5判・756頁・7,600円

隠修士、カタリ派、少年十字軍、ベギン会、鞭打ち苦行団、千年王国運動——ヨーロッパ中世社会が希求した〈靈性〉のあり方を民衆の宗教運動に探り、初期から末期までその持続と変化の様を通して中世世界をトータルに捉え直すとともに、ヨーロッパ精神の最も深い水脈にふれた画期的著作。

[2007] 978-4-8158-0554-8

田野大輔著

魅惑する帝国

—政治の美学化とナチズム—

A5判・388頁・5,600円

総統、労働者、民族共同体をモチーフに「芸術作品」として創造された第三帝国——ナチズムの「政治の美学化」による支配の全体構造と、大衆消費社会におけるキツチュと結びつき統合力を発揮していくメカニズムを、歴史社会学的手法によって解明し、美的なもの現実性を浮き彫りにする。

[2007] 978-4-8158-0562-3

水野由美子著

〈インディアン〉と〈市民〉のはざままで

—合衆国南西部における先住社会の再編過程—

A5判・340頁・5,700円

「インディアン」かつ「市民」という曖昧な法的地位におかれた20世紀前半の先住社会をとりあげ、土地制度・法的身分・学校教育に関する施策とその背景を検討することで、「インディアン」とすること／されることの意味を解剖するとともに、「市民」概念の歴史性・政治性を逆照射する。

[2007] 978-4-8158-0564-7

バーナード・ベイリン著 和田光弘／森丈夫訳

アトランティック・ヒストリー

四六判・228頁・2,800円

国民国家や帝国の枠組みをこえて、大西洋を囲む四つの大陸——南北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ——の相互連関を捉え、トランスナショナルなヒトとモノのダイナミズムを浮かび上がらせる大西洋史。歴史学最新のパラダイムの全貌を、アメリカ史学の泰斗が余すところなく論じる。

[2007] 978-4-8158-0577-7

西澤泰彦著

日本植民地建築論

A5判・520頁・6,600円

日本帝国の拡大に伴って広がった、日本近代建築の忘却された作品群を体系的に展望、各地域における建築史的な位置づけの基礎データを提供しつつ、建築が植民地支配に果たした役割を描く。日本近代建築史の巨大な欠落を埋め、本格的な歴史的评价を示す。**日本建築学会賞受賞**

〔2008〕978-4-8158-0580-7

内田綾子著

アメリカ先住民の現代史

—歴史的記憶と文化継承—

A5判・444頁・6,000円

20世紀の揺れ動く連邦政策のなか、つねに合衆国の国民共同体の周辺に立ってきた先住民の軌跡を、彼ら自身による記録を掘り起こすことで複眼的に把握し、自らのアイデンティティを再構築する主体としての政治・文化戦略を浮き彫りにした、新たな先住民史。

〔2008〕978-4-8158-0581-4

川島正樹著

南山大学学術叢書

アメリカ市民権運動の歴史

—連鎖する地域闘争と合衆国社会—

A5判・660頁・9,500円

アフリカ系アメリカ人への差別撤廃を求めた市民権運動は、合衆国南部から全米へと波及した。本書はこの闘争の全容を、著者自身による現地での聞きとり調査や一次史料の検討を通じて、前史・後史を含めて克明に描出。運動の果たした歴史の意義をアメリカ社会全体の中で位置づける力作。

〔2008〕978-4-8158-0591-3

承 志著

ダイチン・グルンとその時代

—帝国の形成と八旗社会—

A5判・660頁・9,500円

中国史で清朝とよばれるダイチン・グルンは、マンジュ（満洲）人をつくった国家であった。本書は、ナショナリズムに彩られた漢文中心の歴史叙述を脱し、ポスト・モンゴルのユーラシア史の文脈で、膨大な満洲語史料や地図を読み解き、この時代と社会の新たな実像を多角的に描きだす。

〔2009〕978-4-8158-0608-8

S. スブラフマニヤム著 三田昌彦／太田信宏訳

接続された歴史

—インドとヨーロッパ—

A5判・390頁・5,600円

新たなグローバル・ヒストリーの実践——。オリエンタリズム論や構造論的アプローチを批判し、ムガルと西欧の交渉の現場で、人々の思惑と行動が複雑にからみあい事件が展開してゆく「接続」の有り様を丹念に解きほぐす。現在最も注目される歴史家の仕事を凝縮した一冊。

〔2009〕978-4-8158-0614-9

安富歩／深尾葉子編

「満洲」の成立

—森林の消尽と近代空間の形成—

A5判・586頁・7,400円

赤い夕日と凍てつく大地、森を切り裂く鉄道と疾駆する馬車、特産の大豆と独自の紙幣、大商人と移民、廟会とペストなど、生態系から経済・政治・宗教まで、相互のダイナミックな連関を解き明かし、中国本土とは異なる社会システムとその形成過程を初めてトータルに捉えた社会生態史の試み。

〔2009〕978-4-8158-0623-1

梶原義実著

国分寺瓦の研究

—考古学からみた律令期生産組織の地方的展開—

B5判・354頁・9,500円

全国の国分寺瓦および在地寺院の瓦を実見した著者が、地方独自の瓦に注目し、文様と製作技法の両面から、各地の瓦生産システムの実相を復原。分布論的研究を超えて、造瓦組織が相互に連関・影響し変容する様を地域的・時間的な比較によって把握し、従来の国分寺瓦像を刷新する力作。

〔2010〕978-4-8158-0628-6

富谷 至著

文書行政の漢帝国

—木簡・竹簡の時代—

A5判・494頁・8,400円

木簡・竹簡こそが最強の古代帝国を実現した——。紙とは異なる簡牘という文書の特性から、書記官のあり方、書体・書法や書芸術の誕生、そして何よりも帝国を支える徹底した文書行政の実態を、文書の伝達・人の動き・物の管理にわたり、明晰な論理と緻密な考証によって蘇らせた労作。

〔2010〕978-4-8158-0634-7

上島 享著

日本中世社会の形成と王権

A5判・998頁・9,500円

新たな時代たる中世を形づくった巨大な力とは？唐帝国の衰滅を機に、10世紀から始まる中世社会・王権の形成過程を、政治・宗教文化・社会経済にわたって動態的に描き出し、中世という時代の本質を捉える。手堅い史料の読みから数々の創見が並び、歴史像を転換する。**角川源義賞受賞**

〔2010〕978-4-8158-0635-4

シモーナ・コラーニツィ著 村上信一郎監訳 橋本勝雄訳

イタリア 20世紀史

—熱狂と恐怖と希望の100年—

A5判・610頁・8,000円

最も信頼できる現代史——。国王の臣民でしかなかったイタリアの民衆が、議会制民主主義と近代産業国家へと踏み出し、二度の世界大戦や内戦、冷戦などを乗り越えて、国民となり市民となっていく曲折に満ちた道程を、密度濃く描く。複雑で魅力あふれる現代イタリアを理解する最良の一冊。

〔2010〕978-4-8158-0650-7

荒川正晴著

ユーラシアの交通・交易と唐帝国

A5判・638頁・9,500円

遊牧国家とオアシス国家の共生関係の上にあった秩序を取り込みながら唐帝国がユーラシア東部に構築した交通・交易体制を解明。ソグド商人らの活動に着目しつつ駅伝や通行証制度、モノヤカネの流通を考察する。「シルクロード」像の背後にある交易隆盛の実相を明らかにする渾身作。

〔2010〕978-4-8158-0651-4

朝鮮史研究会編

朝鮮史研究入門

A5判・538頁・4,400円

ダイナミックな発展を遂げる隣国の歴史を、第一線の研究者陣が丁寧な解説、韓国での研究動向も踏まえて、大きな転換点を迎えた朝鮮史研究の新たな見取り図を提示する。アジア史的な視野で朝鮮史を位置づけ直した、隣接分野でも必携の研究案内にして、初学者にも最良の入門書。

〔2011〕978-4-8158-0665-1

J. R. マクニール著 海津正倫／溝口常俊監訳

20世紀環境史

A5判・416頁・5,600円

人類史上、未曾有の規模で環境変化が進行した20世紀とは何だったのか。地球の各圏域——岩石圏、土壌圏、大気圏、水圏、生物圏——で生じた変化の全容を、同時代の政治・経済・科学技術との影響関係とともに明らかにする。「歴史学と生態学の統合」を目指すグローバル環境史の名著。

〔2011〕978-4-8158-0677-4

箱田恵子著

外交官の誕生

—近代中国の対外態勢の変容と在外公館—

A5判・384頁・6,200円

科学官僚の帝国で、いかにして近代外交の担い手は生まれたのか——。清末の公使館や領事館の開設はゴールではない。在外公館を孵化器に職業外交官が形成されていく過程を、個々の外交交渉のみならず、人事の実態を含めて把握することで、近代中国外交の展開と特質を浮き彫りにする。

〔2012〕978-4-8158-0687-3

中砂明德著

中国近世の福建人

—士大夫と出版人—

A5判・592頁・6,600円

東アジアの文化のハブとなった「南」の精神に測鉛を下す——。朱子学の原郷にして出版文化の中心を抱え、科擧で大成功を取めながら中央の政治とは縁遠く、海外の世界へと開かれた「異域」の個性。官僚社会でのふるまいと歴史教科書の出版を焦点に、その歴史的境位と文化の質を見定める。
〔2012〕978-4-8158-0689-7

貴堂嘉之著

アメリカ合衆国と中国人移民

—歴史のなかの「移民国家」アメリカ—

A5判・364頁・5,700円

奴隷国家から移民国家へ。しかし、そこには「中国人問題」が存在した。南北戦争後の国家と社会の再編のなか、アメリカの帝國的拡大と人種や性や労働の問題が交錯する〈アメリカ人〉の境界画定の動きを、アジアからの眼差しで多角的・重層的に読み解く。**アメリカ学会清水博賞受賞**
〔2012〕978-4-8158-0690-3

麻田雅文著

中東鉄道経営史

—ロシアと「満洲」1896-1935—

A5判・536頁・6,600円

「満洲」を通るロシアの「植民地化会社」として、露・中・日・仏・米が角逐する国際政治の焦点となった中東鉄道。鉄道経営と植民地経営が一体となった、その全体像を解明。西洋史・東洋史・日本史を横断する跨境的な東北アジア近現代史を描く。**樺山純三賞、鉄道史学会住田奨励賞受賞**
〔2012〕978-4-8158-0711-5

沢井 実著

近代日本の研究開発体制

菊判・622頁・8,400円

ナショナル・イノベーション・システムを歴史的視野で考えるために。第一次大戦から高度成長期までの約半世紀、科学技術の軍事動員を経つつ（軍）官産学の連携をはかり研究開発を行ってきた歴史を、圧倒的な実証によって描く。**日経・経済図書文化賞、企業家研究フォーラム賞受賞**
〔2012〕978-4-8158-0714-6

池内 敏著

竹島問題とは何か

A5判・402頁・4,600円

歴史分析の光に照らし、学問的に確実に言いうることとは何か。日韓双方の史料に精通する著者が、過熱する両国の自己中心的な議論を乗り越えて、近世から現代に至る竹島問題の全体像を余すところなく描き出す。不毛な論争を終わらせ、冷静に問題に向き合うための必読の成果。
〔2012〕978-4-8158-0718-4

村上 衛著

海の近代中国

—福建人の活動とイギリス・清朝—

A5判・690頁・8,400円

貿易、海賊・海難、移民など、清末中国の「海の歴史」に注目し、福建人の活動とイギリスの役割を焦点に、漢文・英文史料を博捜することで、アヘン戦争の再定義を含め、中国を新たな時代へと突き動かした力を多角的に明らかにする。海と陸、近世と近代を接続し、歴史像を刷新した力作。
〔2013〕978-4-8158-0719-1

黛 秋津著

三つの世界の狭間で

—西欧・ロシア・オスマンとワラキア・モルドヴァ問題—

A5判・272頁・5,600円

世界史の「見えざる焦点」、そこでは何が起きていたのか——。西欧・正教・イスラームの三つの世界が接する境域地帯に視点を定め、近代へと移行していく複雑な「世界の一体化」プロセスを、政治外交面から、多言語の一次史料に基づいてつぶさに描き出した、世界的にも稀有な力作。
〔2013〕978-4-8158-0720-7

マティアス・ゲルツァー著 長谷川博隆訳

ローマ政治家伝Ⅰ カエサル

A5判・432頁・4,600円

大政治家とは何か——。徹底した史料の精査とローマ社会全体を見据えた叙述により、新しいカエサル像を描き出した古典的名著。その誕生から暗殺までを一瞥し、世界帝国の創造を跡づける。「ローマ政治家伝」シリーズ第一巻。日本翻訳出版文化賞受賞

[2013] 978-4-8158-0735-1

マティアス・ゲルツァー著 長谷川博隆訳

ローマ政治家伝Ⅱ ポンペイウス

A5判・294頁・4,600円

「偉大（マグヌス）」と呼ばれた男の実像とは。ローマ帝国の拡大に身を投じた「政治家」ポンペイウスの生涯——その誕生から、東方遠征、三頭政治、カエサルとの対決まで——を、残された史料から描き出す。本邦初訳。「ローマ政治家伝」シリーズ第二巻。日本翻訳出版文化賞受賞

[2013] 978-4-8158-0736-8

マティアス・ゲルツァー著 長谷川博隆訳

ローマ政治家伝Ⅲ キケロ

A5判・528頁・5,500円

哲学と弁論を武器に戦った政治家キケロ。共和主義の原点とも目されるその思想は、いかなる政治を目指し、なぜ敗北したのか——。最盛期の共和制ローマを舞台に繰り広げられる攻防から、政治の知とは何かを問う。シリーズ最終巻、本邦初訳。日本翻訳出版文化賞受賞

[2014] 978-4-8158-0737-5

J. G. A. ポーコック著 犬塚元監訳

島々の発見

—「新しいブリテン史」と政治思想—

A5判・480頁・6,000円

主権と歴史のあいだ——。歴史のポストモダニズムに抗しつつ、大西洋・太平洋を含む「群島」の視点から、多元・多層的な「新しいブリテン史」を構想し、グローバルヒストリーにも重い問いを投げかける、政治思想史の碩学によるもう一つの代表作。

[2013] 978-4-8158-0752-8

森平雅彦著

モンゴル覇権下の高麗

—帝国秩序と王国の対応—

A5判・540頁・7,200円

発展著しいモンゴル帝国史研究の成果をふまえ、高麗王朝の元との宗属関係の実態をかつてない水準で描き出す。「元寇」の性格を規定した元-高麗関係の基本構造の解明により、またモンゴル帝国の周辺支配の最も緻密な実証例の提示によって、日本史、世界史にも新たな領域を開く画期的労作。

[2013] 978-4-8158-0753-5

高田英樹訳

マルコ・ポーロ ルスティケッロ・ダ・ピエーサ 世界の記

—「東方見聞録」対校訳—

菊判・822頁・18,000円

「東方見聞録」の名で知られるマルコ・ポーロの書『世界の記』は、様々な版によって内容が異なる。本書は、最も基本的なフランクーイタリヤ語版、セラダ手稿本、ラムージョ版の三版を全訳・対校し異同を示した世界初の試みであり、全ての探究の基盤となろう。日本翻訳出版文化賞受賞

[2014] 978-4-8158-0756-6

池上俊一著

公共善の彼方に

—後期中世シエナの社会—

A5判・600頁・7,200円

公共善の政治的理想のみならず、近隣・家族・職業・遊興・靈性による結びつきから、裁判記録にみられる噂と評判の世界、関係の結節点としての都市空間や諸々のイメージまで、そこに生きる人々の社会的絆に注目し、共同性を更新していく力のありようを探る。フォスコ・マライーニ賞受賞

[2014] 978-4-8158-0765-8

太田 淳著

近世東南アジア世界の変容

—グローバル経済とジャワ島地域社会—

A5判・518頁・5,700円

東南アジア有数の貿易国家バンテンを政治・経済・社会・思想・環境などから徹底的に解説、オランダや中国の刺激に積極的に対応して変容していった現地商人・社会のダイナミズムを胡椒栽培・糖業から海賊活動をも視野に捉え、その世界史的転換を示す。日本学士院学術奨励賞受賞

〔2014〕978-4-8158-0766-5

小杉泰／林佳世子編

イスラーム 書物の歴史

A5判・472頁・5,500円

近代以前、東アジアの木版本と並んで世界の書物文化の二大山脈を形づくったのはイスラーム世界の写本であった。聖典クルアーンから歴史書や科学書まで、また華麗な書や絵画から装丁まで、広大な地域の知と文芸を支えた書物の歴史を、デジタル時代の現在から振りかえる待望の書。

〔2014〕978-4-8158-0773-3

岡本隆司／箱田恵子／青山治世著

出使日記の時代

—清末の中国と外交—

A5判・516頁・7,400円

使節たちの報告書が映し出す世界と中国——。欧米に派遣された常駐公使が、現地での見聞・交渉と、変動する本国のはざまで記した「出使日記」。中国近代外交形成期の在外公館というプリズムを通して、日本を含む各国の状況や国際関係、そして中国の政治・社会の姿が鮮やかに浮かび上がる。

〔2014〕978-4-8158-0778-8

古尾谷知浩著

漆紙文書と漆工房

菊判・406頁・7,400円

漆の保護作用によって、千年の時を超えて遺存した漆紙文書。日本史研究に不可欠な出土文字資料として発掘・調査が進むなかで、何が見えてきたのか。現時点で確認されている漆紙文書を網羅的に集成し、漆工房との関係から律令国家の文書行政まで総合的に探究する。

〔2014〕978-4-8158-0783-2

青山治世著

近代中国の在外領事とアジア

A5判・476頁・6,800円

中国は不平等条約体制の被害者だったのか。華人保護を名目とする南洋領事設置の模索から、領事裁判権の行使に至る中国の対外政策の近代的変容を徹底的に実証。条約体制の平等／不平等のみを問う既存の理解を大きく乗り越えて、近代アジアの国際関係の実像を新たな水準で描き出す。

〔2014〕978-4-8158-0784-9

周藤芳幸著

ナイル世界のヘレニズム

—エジプトとギリシアの遭遇—

A5判・438頁・6,800円

西洋最古のグローバル化の時代であったヘレニズム期、エジプトとギリシアという二つの高文化の交錯は何をもたらしたのか。中心都市アレクサンドリアに見るプトレマイオス朝の表象戦略から在地社会の文化変容まで、エジプトでの長期発掘調査をもとに、新たな地中海世界像を提示する労作。

〔2014〕978-4-8158-0785-6

岡本隆司編

宗主権の世界史

—東西アジアの近代と翻訳概念—

A5判・412頁・5,800円

現代の国際秩序を問い直す——。「宗主権」とは何か。西洋人が多用したこの不可思議な概念の背後に歴史的大転換を読み解くことで、東西の多元的な文化圏を統合したオスマン帝国と清朝の「普遍性」の解体をはじめ包括的に捉え、現在までつづく世界秩序の形成過程を解明した画期的著作。

〔2014〕978-4-8158-0787-0

森安孝夫著

東西ウイグルと中央ユーラシア

菊判・862頁・16,000円

世界史において中央ユーラシア世界が果たした巨大な役割を明らかにすることで、新たなシルクロード史観を構築。東西ウイグルの興亡から、商業ネットワークと交易品、マニ教・仏教の展開まで、現地の多様な出土文書・碑文や美術・考古資料に基づき、激動の時代を描く集大成の書。

〔2015〕978-4-8158-0792-4

杉山清彦著

大清帝国の形成と八旗制

A5判・574頁・7,400円

マンジュ（満洲）人が支配する大帝国はいかにして生まれたのか。国家＝軍事システムたる「八旗制」を軸に大清帝国の構造を満漢文史料から実証的に解明、その帝国形成を中央ユーラシア世界と近世界の交点に位置づけることで、新たな世界史像を描き出す。**三島海雲学術賞受賞**

〔2015〕978-4-8158-0798-6

中野耕太郎著

20世紀アメリカ国民秩序の形成

A5判・408頁・5,800円

歴史の中で動くアメリカ・ナショナリズムを凝視——。「社会的なもの」がせり上がっていく新時代のシカゴに焦点を合わせ、革新主義運動や科学主義の展開から「カラーライン」の構築まで、集団を単位とする「国民秩序」の淵源に迫り、アメリカニズムの変貌を描き出した力作。

〔2015〕978-4-8158-0799-3

夫馬 進著

朝鮮燕行使と朝鮮通信使

A5判・744頁・8,800円

中国への使節494回、日本への使節12回。巨大外交ルートが映し出す東アジア世界の構造とは。琉球の位置づけや、日朝中知識人の学術交流、洪大容の中国行などを手がかりに、朝貢-冊封体制論をこえて東アジア国際関係の実像を浮きぼりに。**徳川賞、パジュ・ブック・アワード著作賞受賞**

〔2015〕978-4-8158-0800-6

奈良岡聰智著

対華二十一カ条要求とは何だったのか

—第一次世界大戦と日中対立の原点—

A5判・488頁・5,500円

反日への決定的転換をもたらした世紀の失政の原因を実証により解明、満洲問題、加藤高明の外交構想、世論、第一次世界大戦などを手がかりに、外交交渉の全貌を描き出す。今日の日中関係、東アジア国際関係をも展望し、その影響を捉える。**サントリー学芸賞、アジア・太平洋賞大賞受賞**

〔2015〕978-4-8158-0805-1

W. シヴェルプシュ著 小野清美／原田一美訳

三つの新体制

—ファシズム、ナチズム、ニューディール—

A5判・240頁・4,500円

戦争と経済危機をくぐり、自然・地域・人間性の回復が希求されるなか、「相互受胎」していく三つの国家——。カリスマの指導者、プロパガンダ、シンボル建築などを手がかりに、「ファシズム」対「民主主義」、「全体主義」対「自由主義」の構図をこえ、今日に至るレジームの深層に迫る。

〔2015〕978-4-8158-0806-8

K. ポメランツ著 川北稔監訳

大分岐

—中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成—

A5判・456頁・5,500円

驚くほど似ていた一つの世界——。東アジアでも西ヨーロッパでも、発達した市場経済は生態環境の制約に直面していた。なぜ西欧だけが大きく分岐していったのか。今日にいたる世界経済の根源的な謎を明らかにし、新しい歴史像を提示したグローバルヒストリーの代表作、遂に邦訳。

〔2015〕978-4-8158-0808-2

南 修平著

アメリカを創る男たち

—ニューヨーク建設労働者の生活世界と「愛国主義」—

A5判・376頁・6,300円

彼らはなぜ「U・S・A！」と叫ぶのか。ヴェトナム戦争時の暴動からWTCの再建現場まで、その「愛国主義的」な行動が目目されてきたニューヨークの建設労働者。インタビュー資料をもとに人種やジェンダーの境界が揺らぐ世紀を生きた人びとの実像に迫る。**アメリカ学会清水博賞受賞**
〔2015〕978-4-8158-0811-2

水島司／加藤博／久保亨／島田竜登編

アジア経済史研究入門

A5判・390頁・3,800円

アジア経済の今日の興隆を導いたものとは何か？長期・広域にわたる経済社会の展開を知るための重要文献を平易に解説、多様性と共通性をともに浮かび上がらせ、アジア経済再興の歴史的淵源を考える。第一線の執筆陣が初めてその全体像を描き出した最良の入門書。
〔2015〕978-4-8158-0816-7

太田 出著

中国近世の罪と罰

—犯罪・警察・監獄の社会史—

A5判・508頁・7,200円

人口爆発、商品経済化、人とモノの移動の激化に伴い急増した犯罪は、清代中国をどう変えていったのか。犯罪、警察、監獄の実態を初めて包括的に描きだし、中国近世社会史の大きな欠落を埋めるとともに、その独自の治安システムの展開を捉えて世界史のなかに位置づけた陸目の成果。
〔2015〕978-4-8158-0818-1

小川眞里子著

病原菌と国家

—ヴィクトリア時代の衛生・科学・政治—

A5判・486頁・6,300円

19世紀に相次いで産声を上げた、公衆保健と実験医学。英国では、前者は数々の施策を経て国家医学から帝国医学へと至り、後者は進化論を組み込みながら独自の展開を遂げた。本書はそれらの全体像と相互の関係を初めて示し、社会と医学の関係を問い直す。**日本科学史学会学術賞受賞**
〔2016〕978-4-8158-0826-6

和田光弘著

記録と記憶のアメリカ

—モノが語る近世—

A5判・526頁・6,800円

事実史と記憶史の統合——。貨幣や懐中時計から、エフェメラ・古文書、そして記念碑まで、植民地期・革命期の歴史や英雄像を紡ぐモノ史料と、歴史研究に新しい知見をもたらすデジタル史料。大西洋史の視点も踏まえ、両者を駆使した画期的なアプローチにより近世アメリカ像を再構築する。
〔2016〕978-4-8158-0827-3

小野沢 透著

幻の同盟 [上]

—冷戦初期アメリカの中東政策—

菊判・650頁・6,000円

1950年代初頭、西側世界の同盟相手として中東は再発見された。盟友イギリスの思惑や、勃興するアラブ・ナショナリズムと交差しつつ、米国はいかにして中東政治への関与を深めていったのか。膨大な一次史料から、知られざる地域構想の運命を描き出す。**アメリカ学会清水博賞受賞**
〔2016〕978-4-8158-0829-7

小野沢 透著

幻の同盟 [下]

—冷戦初期アメリカの中東政策—

菊判・614頁・6,000円

分裂と対立のやまない中東の政治情勢や、産油国と石油産業の抵抗の前に、米国の「同盟プロジェクト」はその限界を露呈していく。挫折と迷走を経て、米国の政策決定者らはいかに舵を切ったのか。今日にまでつながる歴史の転換を精緻に描き、現代史を書き換える。**アメリカ学会清水博賞受賞**
〔2016〕978-4-8158-0830-3

石川亮太著

近代アジア市場と朝鮮

—開港・華商・帝国—

A5判・568頁・7,200円

中国・日本に続く朝鮮開港がアジア経済に与えたインパクトとは。いち早く開港場ネットワークを作り上げた華商の重要性を新たな資料から解明し、朝鮮経済をグローバル・ヒストリーに位置づけるとともに、在来経済との関係、植民地化の過程にも新たな光を投げかける。**日経・経済図書文化賞受賞**
〔2016〕978-4-8158-0832-7

カピル・ラジ著 水谷智／水井万里子／大澤広晃訳

近代科学のリロケーション

—南アジアとヨーロッパにおける知の循環と構築—

A5判・316頁・5,400円

西洋中心でもなく、地域主義でもなく——。科学的な知はどこで、いかにして生まれたのか。植物学や地理学から、法、教育の分野まで、近代的な学知の形成において植民地のアクターが果たした役割に注目し、帝国のネットワークにおける移動・循環の中で科学が共同構築される現場を描く。
〔2016〕978-4-8158-0841-9

中谷 惣著

訴える人びと

—イタリア中世都市の司法と政治—

A5判・530頁・10,000円

ネッロに地代の支払いを求めたチェッコロ、重税の免除を願ったヤコボたち……。法廷に立つ住民らが、その訴えを通して正義と公共善の結びあいを絶えず更新していく動態を、未踏査の裁判記録から明らかにした力作。**フォスコ・マライーニ賞、天野和夫賞、日本学士院学術奨励賞受賞**
〔2016〕978-4-8158-0851-8

並松信久著

農の科学史

—イギリス「所領知」の革新と制度化—

A5判・480頁・6,300円

ローカルな知は科学となるのか——。農業は古来、多くの地域で主要産業であった。工業化が進む中、諸科学と葛藤しつつ「農学」を成立させていく多元的な知と制度の展開を、啓蒙時代から20世紀まで、イギリス社会の文脈を描く。科学史と農業史を架橋し、間文化的な示唆を与える力作。
〔2016〕978-4-8158-0853-2

久保田裕次著

対中借款の政治経済史

—「開発」から二十一カ条要求へ—

A5判・372頁・6,300円

戦後ODAの淵源ともいうべき対中借款は、いかにして始まったのか。草創期にあたる日清戦後から第一次大戦期の展開を多角的にたどり、帝国主義的理解の限界をこえて、国際環境と中国側の主体性も踏まえた新たな実像を描き出す。開発と侵略の間を浮彫にする新鋭の成果。
〔2016〕978-4-8158-0856-3

古結諒子著

日清戦争における日本外交

—東アジアをめぐる国際関係の変容—

A5判・284頁・5,400円

日清戦争は東アジア国際関係の画期だった。しかしなぜそう言えるのか。宣戦布告までの過程で清韓宗属関係の解体を導き、下関条約の内容確定と履行のプロセスで不平等条約体制の動揺と各国の相互関係の変質を促した日本外交の中核的役割を浮き彫りにし、戦争の位置づけを問い直す意欲作。
〔2016〕978-4-8158-0857-0

廣部 泉著

人種戦争という寓話

—黄禍論とアジア主義—

A5判・294頁・5,400円

欧州発のアジア連合脅威論は、西海岸に押し寄せる移民への視線と結びつき、アメリカを「黄禍」の不安に陥れた。ジャーナリズムを介して増幅していく人種主義的言説は、鏡像たるアジア主義と作用し合い、日米関係にいかなる影響を及ぼしたのか。丹念な資料調査により描き出した力作。
〔2016〕978-4-8158-0858-7

神田さやこ著

塩とインド

—市場・商人・イギリス東インド会社—

A5判・382頁・5,800円

植民地統治の影に隠された内部からの巨大な変化とは？近世の主要財源にして後の抵抗運動の象徴ともなった塩に注目し、消費や環境、金融も視野に、勃興するベンガル地域市場と現地商人が生み出すダイナミズムを示して、近代への転換を掴みだす。**日経・経済図書文化賞受賞**

[2016] 978-4-8158-0859-4

岡本隆一著

中国の誕生

—東アジアの近代外交と国家形成—

A5判・562頁・6,300円

東アジア在来秩序を揺るがした明治日本の登場から、琉球、ヴェトナム、朝鮮、チベット、モンゴルへと続く属国・藩部の再編を通して、現代中国の原型が浮かび上がる過程を詳述、万国公法などの翻訳概念の変容から「中国」誕生の全体像に迫る。**アジア・太平洋賞特別賞、櫻山純三賞受賞**

[2016] 978-4-8158-0860-0

家島彦一著

イブン・バットウータと境域への旅

—『大旅行記』をめぐる新研究—

A5判・480頁・5,800円

中国、インド、北方ユーラシア、アフリカなど、イスラーム世界の海・陸の境域情報を伝える『大旅行記』は、記録史料の宝庫と呼ぶにふさわしい。なぜ巡礼を超えて未知なる驚異の領域へと踏み込んでいったのか。その足跡と写本を追って世界を旅し、完訳を成し遂げた碩学による新たな到達点。

[2017] 978-4-8158-0861-7

秋田 茂著

帝国から開発援助へ

—戦後アジア国際秩序と工業化—

A5判・248頁・5,400円

アジアの経済的再興を可能にしたものとは。ロンボ・プランなどイギリスの政策構想を手がかりに、先進国からの所得移転が果たした役割を、戦前以来の連続性のもとで解明、アジアの主体的対応も含めた戦後開発援助の新たな全体像を描き出し、グローバルヒストリーの新機軸を示す。

[2017] 978-4-8158-0865-5

池内 敏著

絶海の碩学

—近世日朝外交史研究—

A5判・512頁・6,800円

近世日朝関係のルートは朝鮮通信使にとどまらない。その外交を最前線でささえた京都五山僧の役割と実像を、訳官使の往来、釜山倭館との関係、漂流民送還や詩文絵画・産品のやりとりなど、広い視野でとらえて日朝外政システムの全体像を解明、東アジア国際秩序の理解を大きく書き換える。

[2017] 978-4-8158-0866-2

デービッド・エジャトン著 坂出健監訳 松浦俊輔他訳

戦争国家イギリス

—反衰退・非福祉の現代史—

A5判・468頁・5,400円

20世紀イギリスは、衰退に苦しむ福祉国家などではなかった。エキスパートが権力を握り産業界と手を結びつつ科学技術の開発に熱を上げた「闘志あふれる」国家を描き、現代史の神話をラディカルに破壊。ジェントルマン中心の歴史観が見てこしてきた実像を明るみに出す野心作。

[2017] 978-4-8158-0874-7

イヴァン・ジャブロンカ著 田所光男訳

私にはいなかった祖父母の歴史

—ある調査—

四六判・416頁・3,600円

これは殺人捜査ではなく、生成の行為だ——。20世紀の悲劇の連鎖のなか、二人はどのように生きたのか。それを調べ、記すことの意味とは何か。革新的な歴史叙述により、アカデミー・フランセーズ・ギゾー賞、歴史書元老院賞、オーギュスタン・チエリー賞をトリプル受賞。

[2017] 978-4-8158-0879-2

森 万佑子著

朝鮮外交の近代

—宗属関係から大韓帝国へ—

A5判・360頁・5,400円

朝鮮はなぜ、東アジア政治の焦点となるのか。中華と近代の結節点に位置し、摩擦の中から生み出されていった外交の論理をその起源から解明。外政機構の形成から大韓帝国の成立までを捉え、激動の東アジア国際関係史の中で決定的な位置を占めた姿を浮かび上がらせる。**大平正芳記念賞受賞**

〔2017〕978-4-8158-0883-9

長縄宣博著

イスラームのロシア

—帝国・宗教・公共圏 1905-1917—

A5判・440頁・6,800円

多数のイスラーム教徒が存在したロシア帝国。彼らはいかに生きたのか。日露戦争から第一次大戦や革命へといたる時代に、政治・行政・教育・戦争・慈善等に関与し、言論と行動によって自らの「公共圏」を生み出したムスリム社会の苦闘を描く。**日本学士院学術奨励賞、三島海雲学術賞受賞**

〔2017〕978-4-8158-0888-4

新居洋子著

イエズス会士と普遍の帝国

—在華宣教師による文明の翻訳—

A5判・414頁・6,800円

カトリック拡大のため東方に渡った宣教師らが、巨大な清朝に見出したものは何か。中国古来の世界像や学術は、キリスト教の教義や勃興する科学と結びつくのか。新たな帝国像を描き出した18世紀のアミオを軸に、「文明の翻訳」の実相を捉える。**サントリー学芸賞、渋沢・クローデル賞本賞受賞**

〔2017〕978-4-8158-0889-1

大塚 修著

普遍史の変貌

—ベルシア語文化圏における形成と展開—

A5判・456頁・6,300円

歴史叙述の根底を問い直す——。前近代の世界には、天地創造に始まる人類の系譜を描く「普遍史」という歴史類型が存在した。著名な「王書」や「集史」から、地方王朝やモンゴル時代の多様な手稿本までを徹底的に調査し、世界認識のダイナミックな変容を跡づける力作。

〔2017〕978-4-8158-0891-4

宮 紀子著

モンゴル時代の「知」の東西 [上]

菊判・574頁・9,000円

日本からヨーロッパまで——。世界史上、空前のレベルで展開したユーラシアを貫く「知」の交流。百科事典や辞書・地図から宗教・政治・経済の諸制度まで、モンゴル帝国による革新と統合の実像を、多言語の文献・美術品・出土文物を駆使して描き出す。**バジュ・ブック・アワード著作賞受賞**

〔2018〕978-4-8158-0900-3

宮 紀子著

モンゴル時代の「知」の東西 [下]

菊判・600頁・9,000円

人・モノ・情報が行き交う——。世界史上、空前のレベルで展開したユーラシアを貫く「知」の交流。歴史・天文・医学・農学などの諸学振興からラシードウッディーンの翻訳事業まで、モンゴル帝国による巨大な事績を多言語史料により描き出す。**バジュ・ブック・アワード著作賞受賞**

〔2018〕978-4-8158-0901-0

斎藤夏来著

五山僧がつなぐ列島史

—足利政権期の宗教と政治—

A5判・414頁・6,300円

地域の信仰を背景に各地を結び付け、体制的武士層を欠く足利政権の全国支配のカギともなった、「夷中」の五山僧の決定的役割を浮かび上がらせて、中央偏重の五山制理解を一新、五山文学も手がかりに、列島社会が内包していた異国の世界をも展望し、新たな中世史像を描き出す。

〔2018〕978-4-8158-0903-4

イヴァン・ジャブロンカ著 真野倫平訳

歴史は現代文学である

—社会科学のためのマニフェスト—

A5判・320頁・4,500円

文学的ゆえに科学的？ 真実と物語のあいだで揺れ動き、その意義を問われてきた歴史。ポストモダニズムの懐疑を乗り越えたあとで、いかにして「歴史の論理」を立て直すことができるのか。自らの実践に基づき、社会科学と文学の手法を和解させ、歴史記述を刷新するための挑戦の書。

[2018] 978-4-8158-0908-9

芝 絃子著

歴史人名学序説

—中世から現在までのイベリア半島を中心に—

A5判・308頁・5,400円

名前に刻まれたヨーロッパ社会の軌跡。家族・親族の結びつきやアイデンティティのあり方、封建制と家族・ジェンダーの関係、フロンティア社会と文化移転、キリスト教の浸透・教化など、人名という新たなプリズムをとおして過去・現在の社会・心性を色鮮やかに浮かび上がらせる。

[2018] 978-4-8158-0912-6

若尾祐司／小倉桂子編

戦後ヒロシマの記録と記憶 [上]

—小倉馨のR.ユンク宛書簡—

四六判・338頁・2,700円

被爆後を生きた人々の物語——。原爆市長・浜井の肉声から、見出される原爆症と医師たちの葛藤、平和活動に身を投じた青年たちの歩みと心のひだ、さらには公娼制や遊郭経営、闇市ややくざの抗争にいたるまで、戦後広島島の再生の足跡を人々の息遣いととも伝える第一級のドキュメント。

[2018] 978-4-8158-0914-0

若尾祐司／小倉桂子編

戦後ヒロシマの記録と記憶 [下]

—小倉馨のR.ユンク宛書簡—

四六判・348頁・2,700円

核時代の原点としての歴史の場へ——。新たな観光事業の立ち上げや市民球場・球団設立といった広島「復興」を描く一方、被爆者の生活苦、外国人をめぐる政策や孤児の問題、原水禁運動における政治的対立などにもフォーカスし、原爆の遺した深い爪痕をありありと伝えるレポート後編。

[2018] 978-4-8158-0915-7

湯澤規子著

胃袋の近代

—食と人びとの日常史—

四六判・354頁・3,600円

人びとは何をどのように食べて、空腹を満たしてきたのか。一膳飯屋、残飯屋、共同炊事など、都市の雑踏や工場の喧騒の中で始まった外食の営みを、〈食〉の視点から活写。農村にも及ぶ広範な社会と経済の変化をとらえ、日本近代史を書き換える。人文地理学会学会賞、生協総研賞研究賞受賞

[2018] 978-4-8158-0916-4

C. A. ベイリ著 平田雅博／吉田正広／細川道久訳

近代世界の誕生 [上]

—グローバルな連関と比較 1780-1914—

A5判・356頁・4,500円

一国史や地域史を超えて、グローバルな相互連関から「近代世界」の成り立ちを解明。革命の時代から第一次世界大戦に至る「長い19世紀」を中心に、西洋近代化とは異なる視点で世界史を問い直し、政治・経済から人々の衣食住まで、新しい全体史を描くグローバル・ヒストリーの代表作。

[2018] 978-4-8158-0929-4

C. A. ベイリ著 平田雅博／吉田正広／細川道久訳

近代世界の誕生 [下]

—グローバルな連関と比較 1780-1914—

A5判・408頁・4,500円

一国史や地域史を超えて、グローバルな相互連関から「近代世界」の成り立ちを解明。イスラム世界、インド、中国、日本をも視野に入れて、思想や科学技術の発展から、社会や宗教の再編、さらには近代芸術の誕生まで、新しい「多中心的」な世界史に挑むグローバル・ヒストリーの名著。

[2018] 978-4-8158-0930-0

安野眞幸著

日本中世市場論

—制度の歴史分析—

A5判・460頁・6,800円

支払い・貸借・契約・裁判・差押えなど、市場が果たした多様な役割を明らかにするとともに、債権取立てを軸に中世日本の展開を描き出したライフワーク。神人・悪僧に発し金融を担う「公界」と公権力とは、慣習法と制定法、文書とその破棄、暴力と秩序等をめぐり、いかに切り結ぶのか。

[2018] 978-4-8158-0921-8

アントワース・リルティ著 松村博史／井上櫻子／齋藤山人訳

セレブの誕生

—「著名人」の出現と近代社会—

A5判・474頁・5,400円

スキャンダラスな公共性——。称賛と批判につつまれた「セレブ」とは、現代のメディアが作り上げた虚像なのか、それとも新たな威光の形なのか。王族・政治家から作家・俳優・音楽家まで、近代の始まりとともに生まれた「セレブリティ」の展開をたどり、公共圏が孕むパラドックスを問う。

[2018] 978-4-8158-0933-1

高田英樹編訳

原典 中世ヨーロッパ東方記

菊判・852頁・12,000円

モンゴル帝国の侵攻はヨーロッパを震撼させ、その世界像に転換を迫った。当時、東方に派遣された修道士や商人たちは何を見、どのように記録したのか。ルブルクやマルコ・ポーロ、ハイトンらの旅行記から、書簡、教会壁画、世界地図まで全15篇を原典から翻訳し、アジア認識の展開を辿る。

[2019] 978-4-8158-0936-2

小川道大著

帝国後のインド

—近世的発展のなかの植民地化—

A5判・448頁・6,800円

インドはなぜ英領となったのか。ムガル帝国の衰退と後継国家の群雄割拠のもと生じた在地の大変動を捉え、中間層権力をめぐる状況の変遷から植民地化の起源を解明、英国統治政策の浸透過程をたどりつつ、近代インドを近世史の発展との連続性の中に位置づける。日経・経済図書文化賞受賞

[2019] 978-4-8158-0939-3

林 采成著

飲食朝鮮

—帝国の中の「食」経済史—

A5判・388頁・5,400円

牛肉、明太子、ビールなど、帝国による「食」の再編は日韓の食文化を大きく変えた。収奪論をこえて、帝国のフードシステムの歴史的意義をはじめ、トータルに解明、生産・流通から植民地住民の身体に与えた影響まで、統治にはたした「食」の決定的な役割を浮かび上がらせる。

[2019] 978-4-8158-0940-9

沢井 実著

南山大学学術叢書

海軍技術者の戦後史

—復興・高度成長・防衛—

A5判・256頁・4,500円

戦後日本の復興と発展に、海軍技術者たちが果たした役割とは何か。造船、自動車、新幹線開発、土木などで高度成長を支えた技術継受の全体像を復元、防衛生産も視野にその質的・量的インパクトを客観的に叙述するとともに、技術者たちの敗戦経験の歴史的特質をも浮き彫りにする。

[2019] 978-4-8158-0943-0

平山 勉著

満鉄経営史

—株式会社としての覚醒—

A5判・504頁・9,500円

満州経営の全方位的担い手とみなされた巨大植民地企業が、国策会社化の挫折と満州国成立後の解体的再編をへて、鉄道中心の営利企業として覚醒する姿を、株式市場への対応からとらえ、終戦まで異例の高収益企業であり続けたメカニズムを解明、日本帝国主義の先兵とされた満鉄像を一新。

[2019] 978-4-8158-0945-4

上 英明著

外交と移民

—冷戦下の米・キューバ関係—

A5判・366頁・5,400円

人の移動がもたらす力——。ワシントン、ハバナ、そしてマイアミ。衝撃はキューバ危機だけではなくだった。移民とその社会が生みだす三つ巴のダイナミズムを捉え、グローバルな冷戦の現場と、アメリカ、キューバの国内政治の連関を、アクセス困難な史料から鮮やかに描きだした俊英の力作。

〔2019〕978-4-8158-0948-5

安元 稔著

イギリス歴史人口学研究

—社会統計にあらわれた生と死—

A5判・468頁・6,300円

人口・家族の動態の復元で世界を牽引し、政治・経済・文化の解明に決定的な影響を与え続けたイギリス歴史人口学の史料・方法とその実践的応用をトータルに叙述、公衆衛生や疾病などの最新の分析も加え、英国社会の新たな全体像に迫ったライフワーク。日本人口学会賞普及奨励賞受賞

〔2019〕978-4-8158-0954-6

L.ダヴィドフ／C.ホール著 山口みどり／梅垣千尋／長谷川貴彦訳

家族の命運

—イングランド中産階級の男と女 1780～1850—

A5判・520頁・7,200円

現在、没落を言われる「中間層」は、どのようにして形成されたのか。——経済・政治・社会が急激に変動する産業革命の中心国を舞台に、家族とジェンダーに注目し、そのイデオロギー・制度・実践を、さまざまな男女の具体的な生き様を通して、あざやかに描き出した名著、待望の邦訳。

〔2019〕978-4-8158-0955-3

太田 出著

関羽と靈異伝説

—清朝期のユーラシア世界と帝国版図—

A5判・324頁・5,400円

三国志の英雄はなぜ中国を代表する神となったのか。民間信仰の広がりや近世国家による統治の不可分の関係を示すとともに、帝国版図の拡大にはたしたその役割を、ユーラシア諸民族とのせめぎあいや現地の人々との習合も視野に描き出す。古代から今日にいたる関羽信仰の全貌を捉えた力作。

〔2019〕978-4-8158-0961-4

足立 孝著

辺境の生成

—征服＝入植運動・封建制・商業—

A5判・612頁・9,800円

とどめなく生み出される無数の「辺境」——そこではなにが生起するのか。中世イベリア半島を舞台に、従来のレコンキスタの図式を排して、征服＝入植運動、封建制、商業の展開プロセスを実証的に解明。遍在する「辺境」から、ラテン・ヨーロッパをも見通す新たなモデルを導き出す。

〔2019〕978-4-8158-0962-1

関 智英著

対日協力者の政治構想

—日中戦争とその前後—

A5判・616頁・7,200円

日中戦争には、占領地における協力の側面もあった。だが協力者は戦後、漢奸として糾弾され、その歴史も未完の政治構想とともに葬り去られた。この影の側面に光を当てることで戦争の全体像に迫り、占領から始まった戦後日本にも鋭い眼差しを向ける。大平正芳記念賞、三島海雲学術賞受賞

〔2019〕978-4-8158-0963-8

蘭信三／川喜田敦子／松浦雄介編

引揚・追放・残留

—戦後国際民族移動の比較研究—

A5判・352頁・5,400円

日本人引揚やドイツ人追放をはじめとする戦後人口移動の起源を、ギリシア＝トルコの住民交換を画期とする近代国際政治の展開から解明するとともに、東西の事例を冷戦やソ連の民族政策もふまえて世界史上に位置づけ、地域や帝国の枠組みをこえた知られざる連関を浮かび上がらせる。

〔2019〕978-4-8158-0970-6

水野祥子著

エコロジーの世紀と植民地科学者

—イギリス帝国・開発・環境—

A5判・268頁・5,400円

新たな知はどこで生まれ、何をもたらしたのか。——20世紀における科学・開発・環境の関係を問い、生態環境をめぐる知の生成と帝国ネットワークによる循環から、植民地開発の思想と実践、国際開発援助への展開をたどり、植民地科学者を軸に「エコロジーの世紀」の成り立ちを描く力作。
〔2020〕978-4-8158-0971-3

森 靖夫著

「国家総動員」の時代

—比較の視座から—

A5判・432頁・5,400円

第一次大戦後、大正デモクラシー下の日本において模索された民間主体の国家総動員構想を解明、同時代の英米で展開された政策も初めて精査して、その驚くべき重なりを跡づける。ファシズムや軍部独裁をその必然的帰結とみなす通説を大きく書き換え、近代史理解の新たな地平を拓く。
〔2020〕978-4-8158-0975-1

齋藤 晃編

宣教と適応

—グローバル・ミッションの近世—

A5判・552頁・6,800円

異文化と出会った〈普遍〉の使者たち——。大航海時代から啓蒙時代にかけて、アジアやアメリカに派遣されたイエズス会士らは、現地社会に適応することで布教を試みる。だが、それは今日なお解決しえない難問の蓋を開くことだった。異文化適応を軸にキリスト教の世界宣教の全体像に迫る。
〔2020〕978-4-8158-0977-5

池上俊一著

ヨーロッパ中世の想像界

A5判・958頁・9,000円

西洋中世の人々が生きた豊穡なる世界——。動植物や人間から、四大や宇宙、天使や魔女、仲間と他者、さらには楽園と煉獄まで、文学・画像・伝説・夢を彩る広大な想像界を縦横無尽に論じ、その全体構造を解明する。心性史・社会史を賦活する「イマジネールの歴史学」の集大成。
〔2020〕978-4-8158-0979-9

岩井茂樹著

朝貢・海禁・互市

—近世東アジアの貿易と秩序—

A5判・432頁・5,400円

「天下を統べる皇帝と朝貢する蕃夷諸国」という美しい理念の外形を辛うじて保っていた明代の通商外交体制も、辺縁からの衝撃で転換を迫られ、清代には互市が広がる。西洋とは異なる「もう一つの自由貿易」への構造変動を、日本の役割も含めて跡づけた労作。**日経・経済図書文化賞受賞**
〔2020〕978-4-8158-0984-3

櫻井康人著

十字軍国家の研究

—エルサレム王国の構造—

A5判・744頁・8,800円

〈キリスト教対イスラーム〉を超えて、多様な人びとからなる社会の全体像へ——。第1回十字軍によって生まれた聖地防衛国家は、内外の異教徒とともになぜ存続しえたのか。祈る人・戦う人・働く人が都市と農村で形づくる王国の姿を、ヨーロッパとの関係も含め、精緻な史料分析から解明。
〔2020〕978-4-8158-0991-1

イヴァン・ジャブロンカ著 真野倫平訳

歴史家と少女殺人事件

—レティシアの物語—

四六判・400頁・3,600円

18歳の女性が誘拐・殺害された「三面記事」事件。だが、大規模な捜査と政治の介入によって、それはスキャンダラスな国家的事件となった。作者＝歴史家は自ら調査を進め、被害者の生の物語を語り始める。そこから明らかになる「真実」とは——。メデイシス賞、ル・モンド文学賞受賞作。
〔2020〕978-4-8158-0993-5

ラン・ツヴァイゲンバーク著 若尾祐司/西井麻里奈/高橋優子/竹本真希子訳

ヒロシマ

—グローバルな記憶文化の形成—

A5判・424頁・4,800円

原爆とホロコーストの交点へ——。かつて「75年間は草木も生えない」と言われた都市は復興を遂げ、平和記念公園は「穏やかな」聖地と化した。いかにして？ 追悼・記念や観光をめぐる記憶の政治、証言とトラウマ、絡み合う犠牲者言説などに注目し、世界の中のヒロシマの位置を問い直す。
[2020] 978-4-8158-0994-2

上原兼善著

黒船来航と琉球王国

A5判・370頁・6,300円

ペリーはまず沖縄にやって来た。——19世紀、次々と現れる欧米列強の開国要求にさらされ、「鎖国」の防波堤とされた琉球の人々。いかに対応したのか。幕府や薩摩藩の姿勢は？ 外圧と内圧の狭間におかれた〈境域〉の経験から、幕末の琉球と欧米との交渉過程を初めてトータルに描く。
[2020] 978-4-8158-0995-9

蒲 豊彦著

闘う村落

—近代中国華南の民衆と国家—

A5判・504頁・7,200円

互いに武力闘争を繰り返す城塞化した村落——。それは王朝交替や辛亥革命などを経ても変わらぬ、明末以来の基層社会の姿であり、共產主義へと向かう農民運動の凄惨な暴力に極まる。宣教師文書を駆使しつつ、初めてその生成・展開・終焉を跡づけ、新たな中国史像を提示。**樺山純三賞受賞**
[2020] 978-4-8158-0998-0

杉原 薫著

世界史のなかの東アジアの奇跡

A5判・776頁・6,300円

工業化の世界的普及は、日本をはじめとする「東アジアの奇跡」なしにはありえなかった。それは「ヨーロッパの奇跡」とは異なる、分配の奇跡だった。——地球環境や途上国の行方も見据えた、複数の発展径路の交錯と融合による、グローバル史の到達点。**アジア・太平洋賞大賞受賞**
[2020] 978-4-8158-1000-9

左近幸村著

海のロシア史

—ユーラシア帝国の海運と世界経済—

A5判・354頁・5,800円

第一次グローバリゼーション下、東アジアの海とヨーロッパの海を結んだ長距離航路と、義勇艦隊が果たした役割とは。政治と経済が混然一体となった海洋戦略により、極東を含む帝国の辺境を統合、国際的経済闘争への参入を試みる姿を捉え、ロシア史をグローバルヒストリーに位置づける。
[2020] 978-4-8158-1008-5

近藤孝弘編

歴史教育の比較史

A5判・328頁・4,500円

「歴史認識」を語る前に——。なぜ歴史をめぐって国どうしが争うのか。世界各地で歴史はどのように教えられてきたのか。歴史家と教育学者の共同作業により、自国史と世界史との関係を軸に、四つの地域の現在までの「歴史教育」の歴史を跡づけ、歴史とは、教育とは何か、を問い直す。
[2020] 978-4-8158-1011-5

林 采成著

東アジアのなかの満鉄

—鉄道帝国のフロンティア—

A5判・638頁・7,800円

帝国拡大の原動力となり、世界でも最高水準を誇った満鉄の鉄道技術はいかにして伝播していったのか。見過ごされてきた本業＝鉄道業の姿をはじめ、その経済的・技術的インパクトを数量的に位置づけるとともに、東アジア鉄道システムの形成から、戦後再編の新たな全体像を描き出す。
[2021] 978-4-8158-1013-9

北村陽子著

戦争障害者の社会史

—20世紀ドイツの経験と福祉国家—

A5判・366頁・5,400円

二度の大戦により、大量の戦争障害者を生み出したドイツで、国家に奉仕した「英雄」はどのような後を生きたのか。公的支援や医療の発達、義肢や盲導犬などの補助具の発展と、他方での差別や貧困、ナチへの傾倒などの実態を描き、現代福祉の淵源を示す。**サントリー学芸賞受賞**

〔2021〕978-4-8158-1017-7

吉田一彦編

神仏融合の東アジア史

A5判・726頁・7,200円

日本独自の宗教現象だと考えられてきた「神仏習合」。しかし、神信仰と仏教の融合はアジア各地域で広く見られる。インド・中国から北東・東南アジアまで多岐にわたる「神仏融合」の実態を解き明かし、一国史的な認識を超えて新たに日本の宗教文化を捉え直す画期的一冊。

〔2021〕978-4-8158-1021-4

田中智見著

ピアノの日本史

—楽器産業と消費者の形成—

A5判・400頁・5,400円

富裕層の専有物であったピアノが人々に親しまれるようになった由来を、明治～現代の歴史からたどり、その普及の意外な原動力を示す。斜陽産業化の危機を超え、音楽教室とともに世界へ広がった日本の鍵盤楽器産業の全体像を描く。**企業家研究フォーラム賞、政治経済学・経済史学会賞受賞**

〔2021〕978-4-8158-1029-0

佐藤彰一著

フランク史Ⅰ クローヴィス以前

A5判・400頁・7,200円

欧州はギリシア・ローマからまっすぐに生まれたのではない。世界システムの大変動後、遠隔地交易、ローマ帝国との対抗、民族移動などを経て誕生した、500年にわたるフランク国家。「自由なる民」の淵源から王朝断絶までをたどる初めての通史。本巻では初代王にいたる波乱の歴史を描く。

〔2021〕978-4-8158-1030-6

佐藤彰一著

フランク史Ⅱ メロヴィング朝の模索

A5判・536頁・7,200円

「軍閥王」が建設した「自由なる民」の王国は、度重なる分裂と統合を経て何を欧州にもたらしたのか。第一人者による初の本格的通史の第2巻。本巻では世界史の新局面のなか、初代王の征服と受洗から司教座・貴族・宮廷権力の形成まで、海を跨いだ交流を視野に、ダイナミックに叙述する。

〔2022〕978-4-8158-1094-8

佐藤彰一著

フランク史Ⅲ カロリング朝の達成

A5判・474頁・7,200円

西洋史上の画期をなすピピンの即位とカールの皇帝戴冠。彼らの後裔による覇権争いの下、中世世界は本格的に姿を現す。「自由なる民」の興亡を辿る初の通史の最終巻。本巻では、王権の動向を軸に、経済的・軍事的変革やキリスト教規範の浸透、新勢力の台頭を世界史的視座で描き切る。

〔2023〕978-4-8158-1127-3

小林和夫著

奴隷貿易をこえて

—西アフリカ・インド綿布・世界経済—

A5判・326頁・5,800円

豊かな消費市場として発展を始めたアフリカが、世界経済の興隆に果たした役割とは。奴隷貿易史観をこえ、現地の動向からグローバル化の複数の起源を解明、西アフリカの人々の主体的活動に新たな光を投げかける。**アジア経済研究所発展途上国研究奨励賞、大隈記念学術褒賞（奨励賞）受賞**

〔2021〕978-4-8158-1037-5

原田昌博著

政治的暴力の共和国

—ワイマル時代における街頭・酒場とナチズム—

A5判・432頁・6,300円

苛烈な暴力を許容する社会はいかにして生まれたのか——。議会制民主主義を謳うワイマル共和国。だが、街頭は世論を左右する新たな公共圏として、ナチスや共産党のプロパガンダの場となり、酒場を拠点とした「暴力のサブカルチャー」が形成されていく。実像を初めて描きだした力作。

〔2021〕978-4-8158-1039-9

後藤里菜著

〈叫び〉の中世

—キリスト教世界における救い・罪・靈性—

A5判・364頁・5,400円

中世ヨーロッパは叫び声に満ちていた——。修道士や「敬虔な女性たち」の内心の叫びから、異界探訪譚が語る罪人の悲鳴、さらには少年十字軍や鞭打ち苦行運動に伴う熱狂まで、キリスト教世界に響き渡る多様な〈声〉に耳を傾け、靈性史・感情史の新生面を切り拓く気鋭の力作。

〔2021〕978-4-8158-1040-5

岡本隆司編

交隣と東アジア

—近世から近代へ—

A5判・380頁・5,400円

交隣とは、たんに日朝の善隣友好を示すものではない。朝貢一元体制の矛盾の露呈を防ぎ、各国の通交を成り立たせた朝鮮外交の意外な役割から東アジアの秩序体系を明らかにし、西洋の到来によるその解体過程も精細にとらえて、世界史的近代の日・朝・中・琉球の姿を映し出す。

〔2021〕978-4-8158-1044-3

吉澤誠一郎著

愛国とボイコット

—近代中国の地域的文脈と対日関係—

A5判・314頁・4,500円

中国ナショナリズムの実像——。時に暴力を伴う激しい対日ボイコットはなぜ繰り返されたのか。単なる外交懸案の解決でも自国産業の振興でもない、それぞれの運動が生じた異なる地域事情と利害・思想を詳らかにするとともに、それらが愛国主義へとつながっていくメカニズムを捉えた力作。

〔2021〕978-4-8158-1048-1

アンソニー・リード著 太田淳／長田紀之監訳

世界史のなかの東南アジア [上]

—歴史を変える交差路—

A5判・398頁・3,600円

世界史を動かし続けた東南アジアを、先史から現代までの全体史として描く、第一人者による決定版。上巻では、近世＝初期近代へと至る展開を各国史や大陸／島嶼の区別をこえた視点でとらえ、環境、宗教、ジェンダー、商業などから、豊かな多様性に迫る。大平正芳記念賞特別賞受賞

〔2021〕978-4-8158-1051-1

アンソニー・リード著 太田淳／長田紀之監訳

世界史のなかの東南アジア [下]

—歴史を変える交差路—

A5判・386頁・3,600円

世界史を動かし続けた東南アジアを、先史から現代までの全体史として描いた決定版。下巻では、植民地支配をこえて国民国家が生成する過程を、消費文化やジェンダー、知的交流などの視点もまじえて示し、多様性を乗り越えなす知恵と現代の発展を含蓄豊かに描く。大平正芳記念賞特別賞受賞

〔2021〕978-4-8158-1052-8

堀井 優著

近世東地中海の形成

—マムルーク朝・オスマン帝国とヴェネツィア人—

A5判・240頁・5,400円

古くからの東西交易の要衝「レヴァント」。中世から近世への転換のなか、イスラーム国家とヨーロッパ商人の共生を支える秩序の行方は？ オスマン条約体制や海港都市アレクサンドリアのあり様から、異文化接触の実像を明らかにするとともに、東アジアに及ぶ「治外法権」の淵源をも示す。

〔2022〕978-4-8158-1053-5

杉本史子著

絵図の史学

—「国土」・海洋認識と近世社会—

A5判・440頁・5,400円

高度に成熟した表現を獲得した国絵図、鳥瞰図などの役割を、色彩・材料などのモノや、制作者や人々の想像力から新たに捉え、近代地図への発展史観が見落とした全体像を提示。近世～近代移行期の社会空間をめぐる理解を書き換える、絵図研究の決定版。中川久定記念基金由学館賞受賞

〔2022〕978-4-8158-1062-7

岡本隆司著

明代とは何か

—「危機」の世界史と東アジア—

A5判・324頁・4,500円

現代中国の原型をかたちづくとともに、東アジア史の転機ともなった明代。世界的危機の狭間で展開した財政経済や社会集団のありようを、室町期や大航海時代との連動もふまえて彩り豊かに描くとともに、民間から朝廷まで全体を貫く構造を鋭くとらえ、新たな時代像を提示する。

〔2022〕978-4-8158-1086-3

ニコル・ルメートル著 佐藤彰一／持田智子訳

村の公証人

—近世フランスの家政書を読む—

A5判・378頁・5,800円

勤勉な農夫、貪欲な高利貸し、病を癒す魔術師——。公証人テラード一族の家長たちは、宗教戦争を経て訪れたあらたな時代を記録する。彼らが生きた物質的・精神的世界とその変容を、農村から都市にひろがる人々の繋がりとともに活写しながら、公証人が持つ「書くこと」の力に迫る。

〔2022〕978-4-8158-1089-4

東栄一郎著 飯島真里子／今野裕子／佐原彰子／佃陽子訳

帝国のフロンティアをもとめて

—日本人の環太平洋移動と入植者植民地主義—

A5判・430頁・5,400円

環太平洋の各地へと展開した日本人移住者の知られざる相互関係を、入植者植民地主義の概念を用いて一貫して把握。移民排斥を受けた日系アメリカ人によって帝国内外へ転移された人流、知識、技術、イデオロギーの衝撃を捉え、見過ごされたグローバルな帝国の連鎖を浮かび上がらせる。

〔2022〕978-4-8158-1092-4

月澤美代子著

ツベルクリン騒動

—明治日本の医と情報—

A5判・504頁・6,300円

フィーバーからスキャンダルへと化したコッホの「結核新治療薬」。日本はどのように受け止めたのか。「情報」の伝達・切り分け・普及を軸に、近代日本の医学・医療の風土が形成される転換期の実相を描く。矢数医史学賞、日本医学ジャーナリスト協会賞・優秀賞、日本科学史学会学術賞受賞

〔2022〕978-4-8158-1101-3

大塚修／赤坂恒明／高木小苗／水上遼／渡部良子訳註

カーシャーニー オルジェイトウ史

—イランのモンゴル政権イル・ハン国の宮廷年代記—

A5判・516頁・9,000円

モンゴル帝国を構成する政権の一つ、イル・ハン国に仕えた歴史家カーシャーニー。その手になるオルジェイトウ治世の年代記は、『集史』以降の時代を扱うとともに、ユーラシア各地の貴重な情報をも記録した第一級の史料である。詳細な解題・訳註を付した、バルシア語史書初の日本語全訳。

〔2022〕978-4-8158-1105-1

中澤克昭著

狩猟と権力

—日本中世における野生の価値—

A5判・484頁・6,800円

日本の歴史において、狩猟はつねに権力と結びついていた。なぜ「野生のキャブチャー」がそれほど大きな政治性を帯びたのか。天皇・公家や武士たちが実践した鷹狩・巻狩などを通観し、殺生禁断や、暴力と儀礼をつなぐ広範な狩猟文化を探究する中から、列島の人間と動物の関係を問い直す。

〔2022〕978-4-8158-1106-8

鈴木 董著

オスマン帝国の世界秩序と外交

A5判・324頁・5,400円

イスラムの世界帝国の理念・現実・変容——。ナショナルな主権国家とは異なる秩序観に基づき、多様な人々を包摂した大帝国。そのダイナミックな「国際」関係や対外交渉行動を描くとともに、近代の西欧国際体系との関係を、外交使節や公館、革命や大戦への対応などから論じた碩学の労作。

〔2023〕978-4-8158-1117-4

小俣ラポー日登美著

殉教の日本

—近世ヨーロッパにおける宣教のレトリック—

A5判・596頁・8,800円

日本はキリスト教文化にとって〈暴虐と聖性の国〉だった。驚くべきイメージはどのように成立・普及したのか。長崎二十六殉教者の列福やその聖遺物の行方、多様な殉教伝・磔図像・残酷劇などを跡づけ、東西をつなぐ「双方向の歴史」を実践する。サントリー学芸賞、日本学士院学術奨励賞

〔2023〕978-4-8158-1119-8

加藤祐介著

皇室財政の研究

—もう一つの近代日本政治史—

A5判・410頁・6,300円

ヴェールに覆われた皇室財政の姿を初めてトータルに解明。御料地経営や証券投資、恩賜などの経済・財政の展開から皇室の公私や民衆との関係を大きく位置づけなおすとともに、国務と並び立つもう一つの国制の体系を浮かび上がらせる。戦後の皇室が抱える葛藤も照らし出した割目の成果。

〔2023〕978-4-8158-1126-6

沢井 実著

日本帝国圏鉄道史

—技術導入から東アジアへ—

A5判・340頁・5,800円

帝国日本の「骨格」はいかに形成されたのか。欧米から吸収した最先端の鉄道技術が朝鮮・満洲といった外地において固有の仕方でも実践され、戦後へとつながる一大鉄道網の構築に至る歩みを、技術者など人的資源の移転を軸に比類なきスケールで描き直す。鉄道史学会住田奨励賞受賞

〔2023〕978-4-8158-1135-8

羽賀祥二著

軍国の文化 [上]

—日清戦争・ナショナリズム・地域社会—

A5判・478頁・6,300円

近代初の本格的対外戦争は、いかなる制度と心性のもとに遂行され、戦いと病いによる膨大な犠牲を社会はどのように受容したのか。動員体制の確立から、戦闘と占領地統治の様相、葬送・記念や仏教教団の活動まで、あまねく探究、「大量死の時代」が生んだ戦争協同体の構造を解明する。

〔2023〕978-4-8158-1137-2

羽賀祥二著

軍国の文化 [下]

—日清戦争・ナショナリズム・地域社会—

A5判・640頁・7,300円

華やかな祝祭や忠勇の伝承、民衆の献身的な恤兵活動、国家・郷里による死者の追悼と遺族支援など——。これらが織りなす戦争協同体の総体と、新たに現れた倫理や歴史認識を、国外の動向と共に包括的に検証し、帝国日本が抱き続けた愛国のメンタリティと軍国主義の起源を辿る泰斗の労作。

〔2023〕978-4-8158-1138-9

伊藤之雄著

維新の政治と明治天皇

—岩倉・大久保・木戸の「公論」主義 1862～1871—

A5判・834頁・9,800円

国家の危機を前に、幕末・維新のリーダーたちはいかにして政治的意思決定を行ったのか。そのとき天皇のあり方はどのように変化したのか。岩倉具視・大久保利通・木戸孝允らによる「公論」主義を軸に、倒幕から廃藩までの激動の過程を一貫した視座のもとで捉え、新たな明治維新像を提示する。

〔2023〕978-4-8158-1139-6

木土博成著

近世日琉関係の形成

—附庸と異国のはざままで—

A5判・442頁・6,300円

近世日本の外部にして島津氏の「属国」——琉球王国の両義的地位はいかに確立したのか、幕府と琉球のチャネルたる薩摩を主軸として立体的かつ動態的に把握。琉球使節の実態や海禁・華夷秩序との関係に新たな光をあて、朝鮮との比較も視野に日琉関係の全体像を一新する。**伊波普猷賞受賞**
〔2023〕978-4-8158-1142-6

林 采成著

健康朝鮮

—植民地のなかの感染症・衛生・身体—

A5判・564頁・6,800円

パンデミックを経験した植民地は、いかにして医療衛生システムを構築し、人々の健康を管理しようとしたのか。学校・工場・農村・軍・遊廓などの実態を、スポーツやレクリエーションも視野に解明、帝国内における医療の社会化の光と影を捉えた渾身の成果。**アジア・太平洋賞特別賞受賞**
〔2024〕978-4-8158-1144-0

小林亮介著

近代チベット政治外交史

—清朝崩壊にともなう政治的地位と境界—

A5判・430頁・7,200円

仏教を介して中国と特別な関係結び、広大な領域を治めたグライ・ラマ政権。東アジア国際秩序の構造転換の前に、彼らは勢力を維持すべくいかに行動したのか。その時、「独立」「自治」の意味とは何か。現代に至るチベット問題の起源を、内的に究明した画期的成果。**サントリー学芸賞受賞**
〔2024〕978-4-8158-1146-4

古松崇志著

ユーラシア東方の多極共存時代

—大モンゴル以前—

A5判・836頁・13,000円

遊牧王朝と中国王朝は、なぜ数百年間も併存できたのか。モンゴル以前のユーラシア東方における契丹（遼）と北宋の盟約による「澶淵体制」、さらには金（女真）の時代の国際関係に焦点を当て、考古資料も活用しつつ、外交・儀礼・信仰から歴史編纂まで東洋史・中国史像を刷新する。
〔2024〕978-4-8158-1150-1

リッカルド・カリマーニ著 藤内哲也監訳 大杉淳子訳

ヴェニスのユダヤ人

—ゲットーと地中海の500年—

A5判・392頁・6,300円

隔離か、共生か——。差別と寛容の狭間で、豊かな文化を育んだヴェネツィアのユダヤ人たち。16世紀から現代にいたるヨーロッパ・地中海世界の激動の歴史のなかで、金融業や商業、さらには政治・宗教・思想などの領域で活躍した「シャイロックたち」と、水の都が織りなす500年の物語。
〔2024〕978-4-8158-1156-3

平井健介著

日本統治下の台湾

—開発・植民地主義・主体性—

四六判・386頁・3,600円

半世紀に及ぶ支配のなかで、台湾は何を経験したのか。経済開発を軸として社会の隅々にまで及んだ統治の実態と、環境の激変を生き抜く台湾人の主体性を同時に捉え、「近代化」の全容と限界を描き出す。「収奪」一色でも賛美・肯定でもない、信頼できる通史の決定版。**和辻哲郎文化賞受賞**
〔2024〕978-4-8158-1158-7

ロバート・パーカー著

栗原麻子監訳 竹内一博／佐藤昇／齋藤貴弘訳

古代ギリシアの宗教

A5判・448頁・6,300円

日常生活から哲学・文学・芸術、ポリスや王国の統治まで、ギリシア人の「文明」は実は宗教と切り離せない。神々や英雄に祭礼・祈りを捧げるなかで、人々は何を経験したのか。人類学や考古学も参照しながら、多様性に満ちた信仰の根幹を捉えた、第一人者による格好の案内。
〔2024〕978-4-8158-1164-8

河西棟馬著

「後進国」日本の研究開発

—電気通信工学・技師・ナショナリズム—

A5判・386頁・5,800円

「後進国」は、発明された技術の利用者にとどまるのか。鳥潟右一や八木秀次、松前重義など、移植や模倣を脱した戦前の技術者たちの系譜を、その背景ともども明らかにする。挫折した構想も見据え、技術史的達成と限界を冷静に分析した気鋭の力作。**日本産業技術史学会賞**

〔2024〕978-4-8158-1168-6

吉井文美著

日本の中国占領地支配

—イギリス権益との攻防と在来秩序—

A5判・330頁・6,300円

満洲事変以降、固有の矛盾をはらんだ日本の中国支配において、外国資本や海関制度の掌握にむけた試みは前例のない展開をみせた。既存の法秩序や欧米の利権を残存させたまま進んだ特殊な支配の内実を、日・英・中の視点をクロスさせ、在華外国人の反応の諸相とともに立体的に描き出す。

〔2024〕978-4-8158-1169-3

アングロス・ハニオティス著 藤井崇訳

アレクサンドロス以後

—長いヘレニズムとギリシア世界—

A5判・410頁・6,300円

人や物の活発な移動、大都市や新宗教の出現、市民の政治参加とその浸蝕——。地中海から中央アジアまで広がった言語・制度・文化は、在地社会と交わりながら未曾有の光景をもたらした。ローマ期にも続いたギリシア人の「グローバル」な拡散・統合を500年にわたり描く画期的通史。

〔2024〕978-4-8158-1170-9

貝原伴寛著

猫を愛でる近代

—啓蒙時代のペットとメディア—

A5判・498頁・6,300円

かつては害獣対策はもちろん、薬用や祝祭の犠牲にも供されていた猫。なぜ、どのようにして「愛らしいペット」になったのか——。啓蒙期フランスの科学・文学・美術を通して猫観の変容を跡づけ、「ネコ好き」社会をもたらした感情共同体の誕生に迫る。**渋沢・クローデル賞本賞受賞**

〔2024〕978-4-8158-1172-3

吉田一彦著

神仏融合史の研究

A5判・448頁・6,300円

アジア各地に見られる神仏の〈融合〉は、日本ではどのように導入・発展・定着し、その過程でいかなる独自性を得たのか。神宮寺建立とそれを支えた思想から、山岳信仰や鬼神観念、本地垂迹説の成立まで、仏法と神信仰の重層的な融合過程を検討。日本宗教を世界史的視座から再考する。

〔2024〕978-4-8158-1173-0

大澤広晃著

善意の帝国

—イギリスのフィランスロピーと南アフリカ—

A5判・466頁・6,800円

国内の弱者をこえ、奴隷や先住民にも救いの手を伸ばそうとした帝国大の「善意」。救済・福祉・支配が重なりあうその姿とは？ 人道主義の活動とイデオロギーを克明に跡づけ、非白人への屈折したまなざしや人種隔離との両義的關係を析出、チャリティの可能性と限界に迫る。

〔2024〕978-4-8158-1174-7

安野眞幸著

戦国家法の形成と公界

—『結城氏新法度』と『相良氏法度』を読む—

A5判・576頁・12,000円

戦国大名の領国経営を土台から捉え直す——。君臣関係、軍事、賞罰、課役、契約など、多様な規定を含む家法。そこに現れる公界とは何か。当主の支配確立から、武士・百姓・下人のあり様、そして流通・金融を担う商人との関係まで、法文の精密な読解により新たな歴史像を立ち上げる。

〔2024〕978-4-8158-1177-8

若尾祐司著

世界記者ユンクの20世紀 前編

—ナチ時代—

A5判・428頁・5,800円

ヒロシマを世界に伝えたジャーナリスト、ロベルト・ユンク。ドイツのユダヤ人家庭に生まれ、迫害を生き延びた激動の生涯を、20世紀の歴史とともに描き上げる初の伝記。1945年までの青年期を中心に、透徹した『世界週報』論説や「プレス自由」研究などナチ時代の活動に光をあてる。
〔2025〕978-4-8158-1180-8

谷 徹也著

豊臣政権の統治構造

A5判・624頁・8,000円

秀吉の「天下統一」は、日本・東アジアの近世化をいかに導いたのか。それは単なる「専制」だったのか。実務を担う奉行らと自律的な在地社会の交渉から、複数の〈首都〉の成立、朝鮮侵略による転換まで、支配機構の全容と政策の柔軟性を一貫した視座で把握し、政権像を鮮やかに更新する。
〔2025〕978-4-8158-1181-5

伊東剛史著

近代イギリスの動物史

—歴史学のアニマル・ターン—

A5判・424頁・6,300円

都市化・産業化が進み、生命に関する新たな学問が発展するなか、人と動物の関係も大きな転機を迎えた。科学振興を目指すロンドン動物園の展示から、虐待・実験をめぐる社会的論争、進化論やグローバルな採集に基づく「生物多様性」の誕生まで、現代にいたる動物観の形成を解き明かす。
〔2025〕978-4-8158-1183-9

橋本伸也著

記憶の戦争

—「ホロコस्त」の呪縛と現代的危機—

四六判・248頁・3,600円

「戦争を生みだす磁場」を捉える——。ウクライナ、パレスチナ……相次いで現前化した激烈な武力紛争をつなぐものは何か。「記憶の政治」の過熱と、それをもたらす国際的構図を見据え、我々の認識を拘束するものを剔抉。現代の「ジェノサイド」をめぐる歴史と政治を鋭く論じた洞察の書。
〔2025〕978-4-8158-1189-1

飯島直樹著

天皇の軍事輔弼体制

—元帥と戦争指導の政治史—

A5判・368頁・6,800円

「輔弼」として知られる天皇への助言システムは、昭和期までは有効に機能し、軍統制の一大焦点となっていた。天皇一軍関係の核心を、明治の建軍から二度の大戦まで初めて統一的に解明。多角的な輔弼構造の形成と衰微を実証し、軍部の台頭や戦争責任問題にも新たな光を当てる意欲作。
〔2025〕978-4-8158-1192-1

池上俊一／河原温編

聖人崇敬の歴史

A5判・672頁・9,000円

守護聖人から聖女まで、なぜ一神教のもとで多数の聖人が求められたのか。殉教者崇敬に端を発し、聖地巡礼や「列聖」制度、宣教の進展とともに花開いた聖人崇敬の歴史を、正教会や東方諸教会、アジア・アメリカ・アフリカを含む世界的拡がりの中で初めて一望、その複雑多岐な役割に迫る。
〔2025〕978-4-8158-1196-9

デイヴィッド・エジャトン著 中澤聡訳

旧きものの衝撃

—1900年以降のテクノロジーとグローバル・ヒストリー—

A5判・304頁・5,400円

イノベーション信仰をこえて——。生活、産業、さらに軍事も、「新型」だけでは成り立たない。むしろ我々は、馴染みある品々や技術を、修理・改良して使い続けている。この事実から見えてくる、驚くほど豊かな世界とは。先進国から貧困地域まで、テクノロジーの多様な進化を辿る。
〔2025〕978-4-8158-1198-3

ダニエル・イマヴァール著 和田光弘監訳
森脇由美子／小澤卓也／内田綾子／高橋博子／上英明訳

帝国の隠し方

—大アメリカ合衆国の歴史—

A5判・456頁・5,400円

アメリカ合衆国といえば、一体となった大陸本土の地図が思い浮かぶ。だが歴史上は、ハワイ、フィリピン、プエルトリコをはじめ多数の海外領土や内陸准州を保持してきた。アメリカは辺境の地で何をしてきたのか。新たな帝国像とともにアメリカのリアルな姿を明るみに出す卓抜な通史。

〔2025〕978-4-8158-1199-0

大西吉之著

寛大と選別

—近世オランダの救貧システム—

A5判・296頁・5,800円

近代経済を生み出した覇権国家オランダ。だがその陰では、貧困層の増加とともに社会保障の整備が大きな課題となった。孤児や移民の包摂・排除から「寛大すぎる救貧」批判まで、福祉と財政をめぐる現代的諸問題にいち早く直面した都市社会の実像をつぶさに探究する。

〔2025〕978-4-8158-1202-7

佐藤彰一著

フランス中世史 I カペー朝の革新

A5判・544頁・8,000円

フランクからフランスへ、西洋国家の淵源をたどる——。紀元千年に現れた王国は、強大な宿敵との対決を経て、いかにその体制を形作ったのか。グローバルな視座で政治・社会・経済を一望する本格的通史。本巻では、王権の飛躍をスラヴや中東まで広がるネットワークの中で描く（全2巻）。

〔2025〕978-4-8158-1203-4

岡本隆司著

塩政・関税・国家

—近代中国の徴税と社会—

A5判・456頁・7,200円

取引＝徴税が映しだす中国固有の秩序とは——。唐代から千年以上続いた塩取引の統制と流通課税、すなわち「塩政」。清末以降の関税・海関制度とのパラレルな展開を手がかりに、「専売」「独占」といった既存の枠組みでは捉えきれないその実像を解明し、今につながる中国社会の深層に迫る。

〔2025〕978-4-8158-1207-2

田口宏二郎著

大運河と「帝国」

—明代における南北中国の構築—

A5判・466頁・7,200円

それは「中国」に何をもたらしたのか——。豊かな江南と北京を繋いだ明代の大運河。そこでは何がどのように運ばれ、地域の社会経済はいかなる影響を受けたのか。輸送体制の変遷を、首都圏・帝国規模の財政や流通との連関でつぶさに解明。「南北統合」の実態と言説を根底から問い直す。

〔2026〕978-4-8158-1219-5

大久保翔平著

アヘンの近世

—オランダ東インド会社と海域アジア—

A5判・488頁・7,200円

浸透するアヘン、社会問題の出現——。グローバル経済の拡大期、海域アジアで始まったアヘンの取引は、地域と世界に何をもたらしたのか。多様な出自の人々が参加する生産・流通から消費形態の変容、植民地統治の進展に繋がる規制まで、アヘン戦争以前のドラッグ経済を初めて一望する。

〔2026〕978-4-8158-1223-2

佐藤雅哉著

アメリカはなぜイスラエルを支援するのか

—揺れ動くまなざしの歴史—

A5判・346頁・5,400円

宗教、メディア、ビジネス界から記憶の政治まで、アメリカ社会で創出され続けるイスラエルへの好意的感情は現実の政治を動かし、「特別な関係」を支えてきた。異論や批判との衝突のなかで絶えず編み直されるイメージの力学を、特定の勢力や時代に還元せず包括的に描き出した割目の書。

〔2026〕978-4-8158-1226-3

ピーター・バーク著
岩井淳監訳 小田透／辻本論／米山優子訳

無知の世界史

A5 判・372 頁・5,400 円

私たちは先人よりもよく知っているのか、それとも——。近年の無知学（アグノトロジー）を踏まえつつ、思想や科学から、政治や経済、さらには災害や気候変動まで、多面的で複雑な「無知」の歴史をまとめあげた前人未到の成果。「知の社会史」を牽引する碩学の注目作、ついに邦訳。

[2026] 978-4-8158-1237-9
